昭和56年9月15日発行（毎月1回15日発行・通巻第143号）　昭和55年10月9日第三種郵便物認可

バドミントン界

9

The Badminton World No. 143　1981



The Badminton Association of England presents the

ALL ENGLAND CHAMPIONSHIPS

Wembley Arena 25th—29th MARCH 1981



●女子ダブルス優勝

Nora Perry
ノラ・ペリー（イングランド）
Jane Webster
ジェーン・ウェブスター（イングランド）



●男子ダブルス優勝

Kartono
カルトノ（インドネシア）
Heryanto
ハリヤント（インドネシア）



●混合ダブルス優勝

Nora Perry
ノラ・ペリー（イングランド）
Mike Tredgett
マイク・トレジェット（イングランド）

カールトン,全ダブルスを制覇!!

カールトンは'81全英選手権大会の全ダブルスを独占しました。しかも，ファイナリストのうち50%がカールトン・ラケットを使用，ここでも**特殊ステンレス・スチール・フレーム**の優秀性が見事に実証されました。

STAINLESS STEEL
ステンレス・スチール

Stainless Steel
Made in England

カールトン3.7シリーズのフレームは，特殊ステンレス・スチールで作られています。独自に開発されたこのステンレス・スチールは，反撥力，耐久力，そしてスィートスポットの広さと全ての長所を備え，理想的な素材とされています。このタッグのついたカールトン3.7シリーズはあなたに最高のプレーを保証いたします。



New 3.7S
¥12,500
（ヘッドカバー付）
●フレーム：ステンレススチール●シャフト：カーボン(テーパー)●グリップサイズ：3½,3⅜

3.7X
¥10,500
（ヘッドカバー付）
●フレーム：ステンレススチール●シャフト：スチール(フラット)●グリップサイズ：3½,3⅜

3.7
¥9,800
（ヘッドカバー付）
●フレーム：ステンレススチール●シャフト：スチール(テーパー)●グリップサイズ：3½,3⅜

carlton
That's the name of the game

総輸入元　メトロレジャー株式会社　〒101 東京都千代田区外神田5-6-4 TEL.(03)833-3661(代)

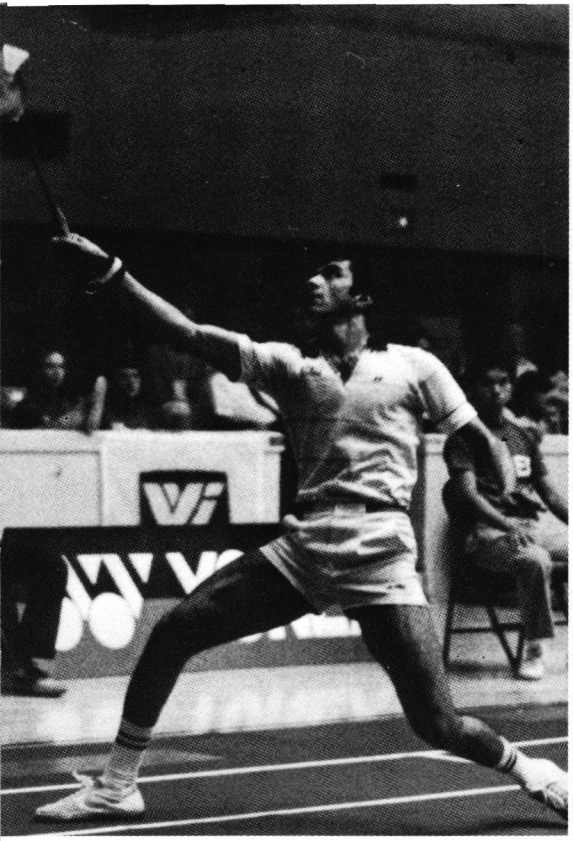
ワールドゲームス



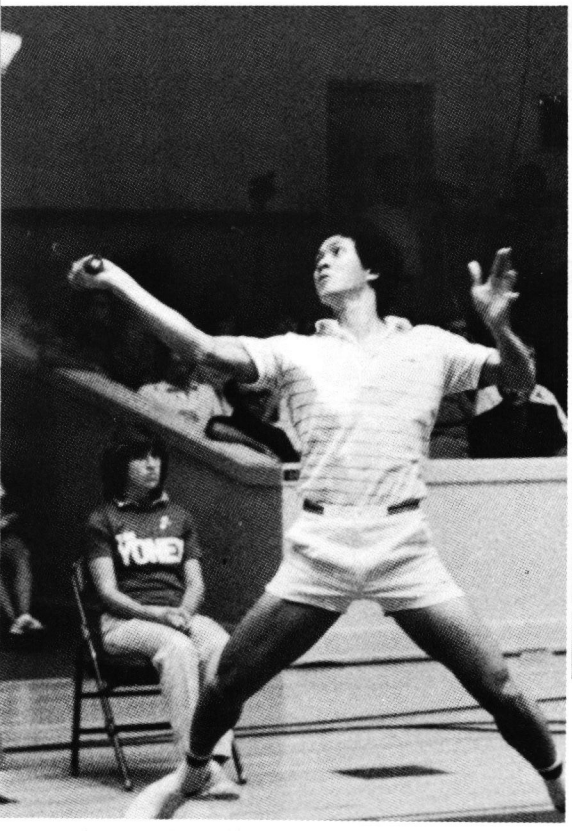
男子シングルスを制し両手でメダルをかかげる陳昌杰（中国）

名実ともに世界一となった張愛玲・リュウシャ組（中国）

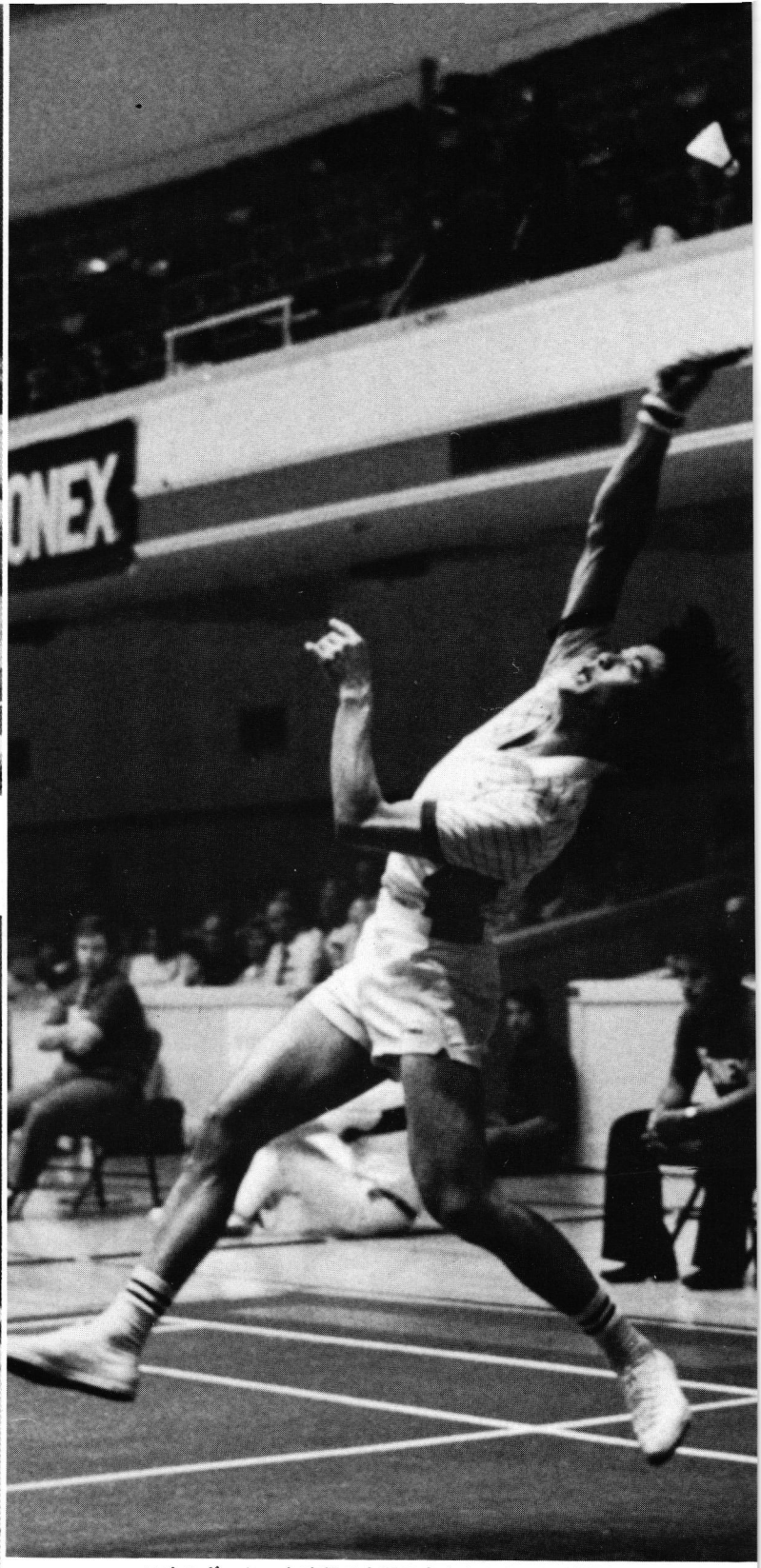




2ゲームともセッティングに持ち込んで
陳に迫ったプラカシュ（インド）



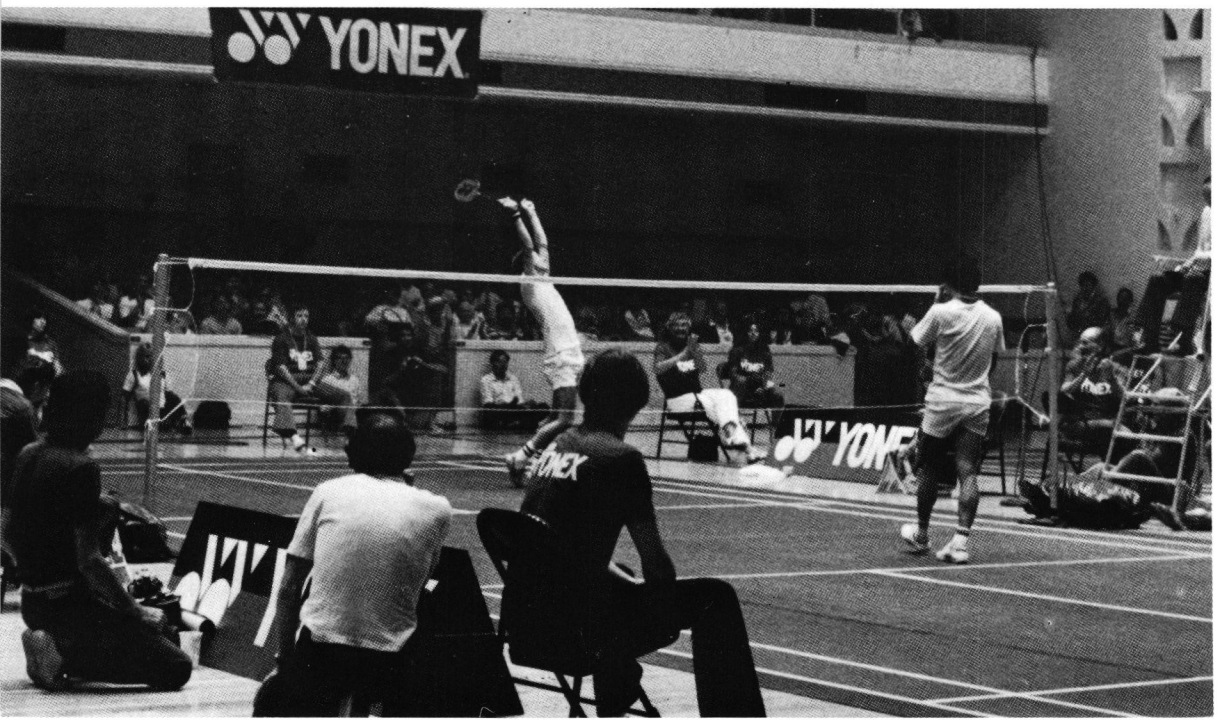
あの破壊力が影をひそめてしまった
リム・スイ・キン（インドネシア）



エネルギッシュな攻撃で中国の底力をみせつけた陳昌杰

ファイナルになっても衰えを知らない桃喜明・孫志安組（中国）

ハンセン（デンマーク）はリム・スイ・　　を倒して思わずガッツポーズ



クリスチャン・チャンドラ組（インドネシア）も中国勢にはおよばず

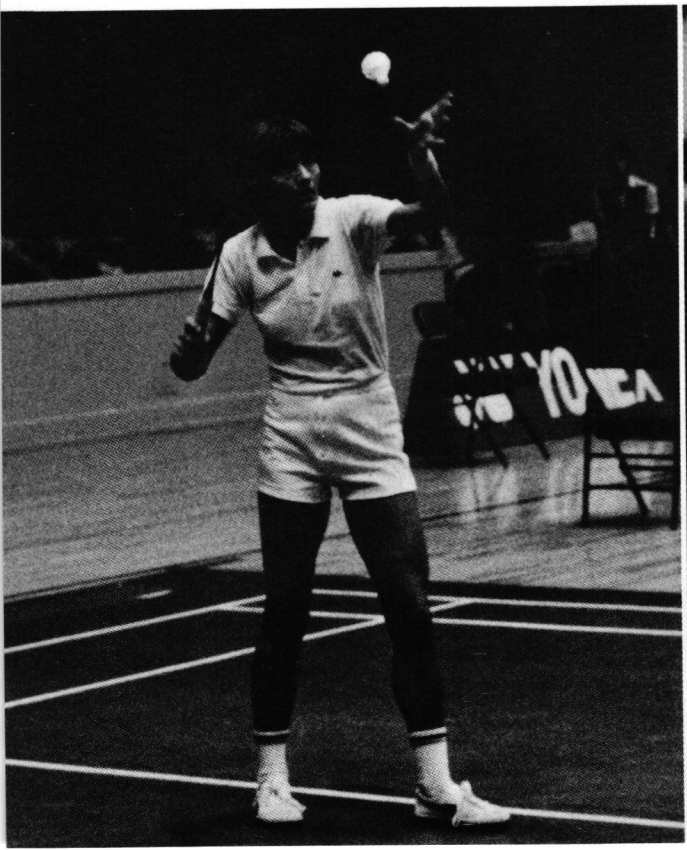
レシーブ力は抜群のキールストロム・カールソン組（スウェーデン）



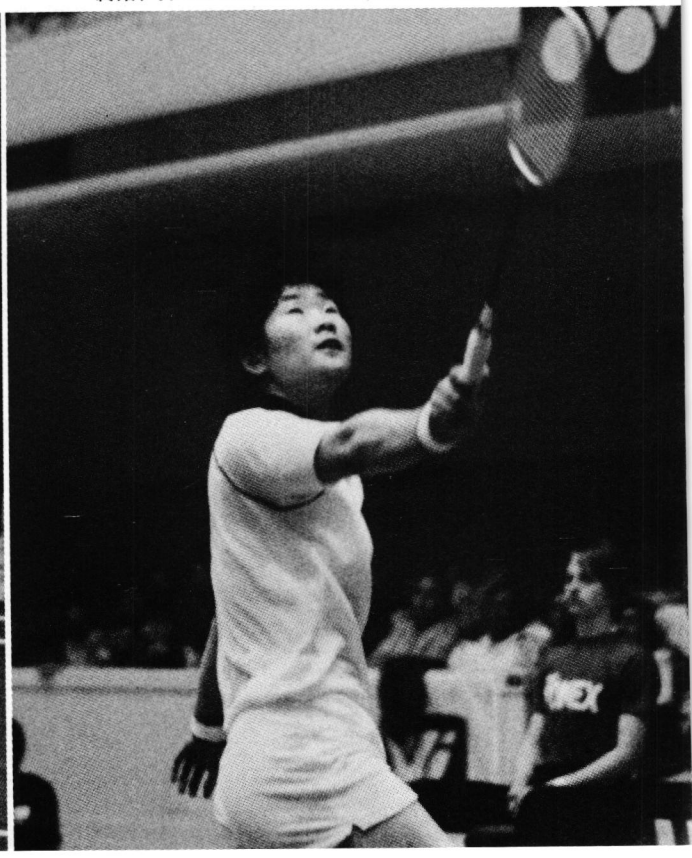


力の黄善愛をわずかに抑えた〝技〟の張愛玲（中国）

コーペン（デンマーク）は張愛玲に歯が立たず完敗

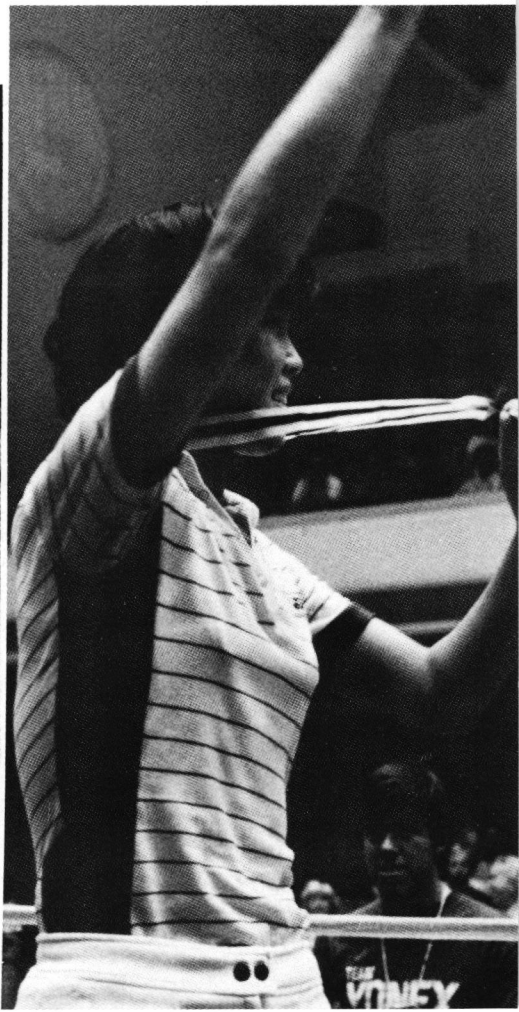


終始、押しぎみに試合を進めた黄善愛（韓国）だったが…

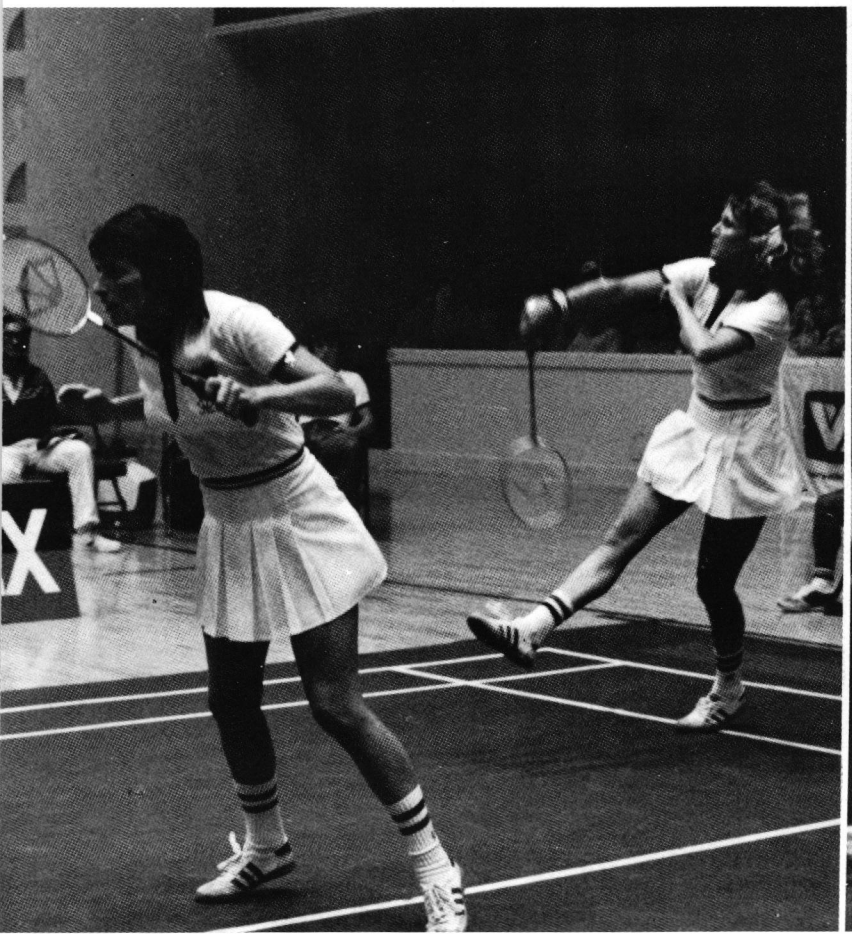


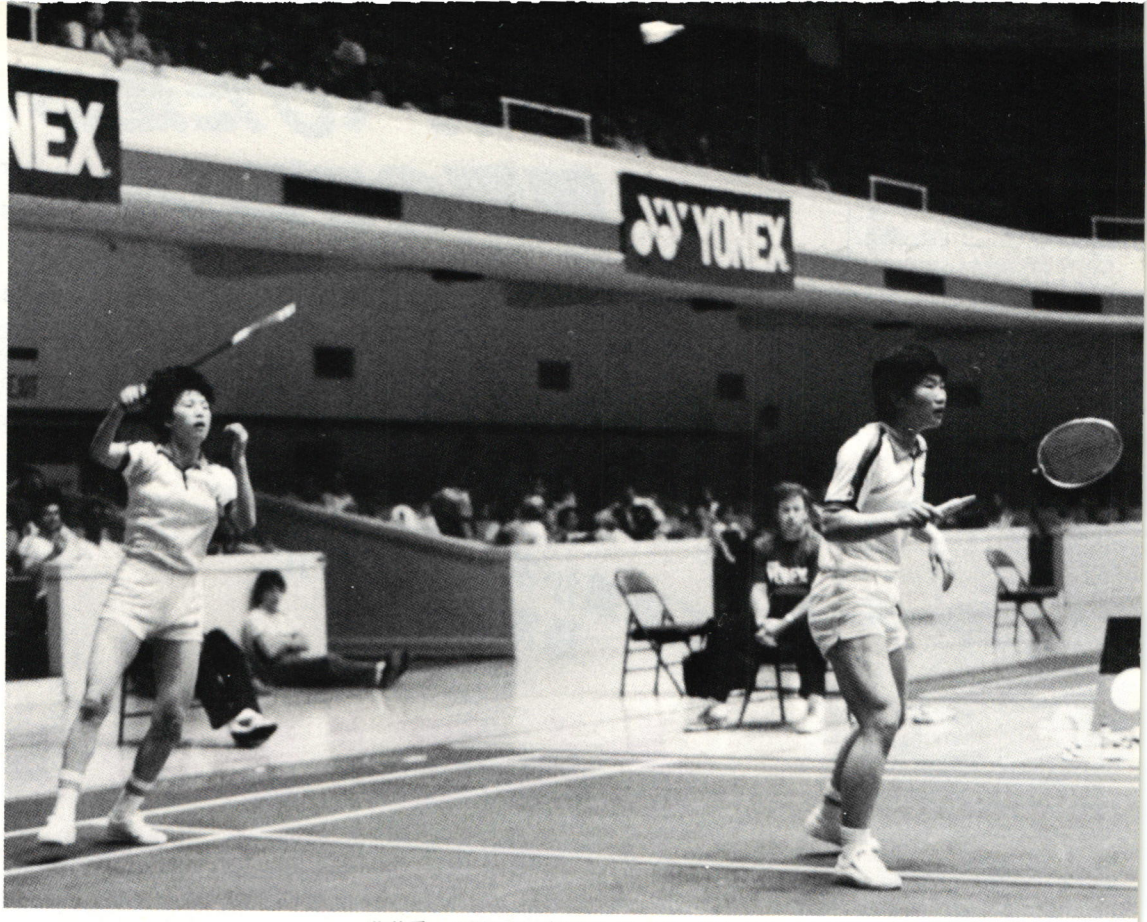
尻上がりに調子を出して女子ダブルスに優勝したリュウシャ・張愛玲組（中国）

晴れ晴れとした表情の張愛玲（中国）



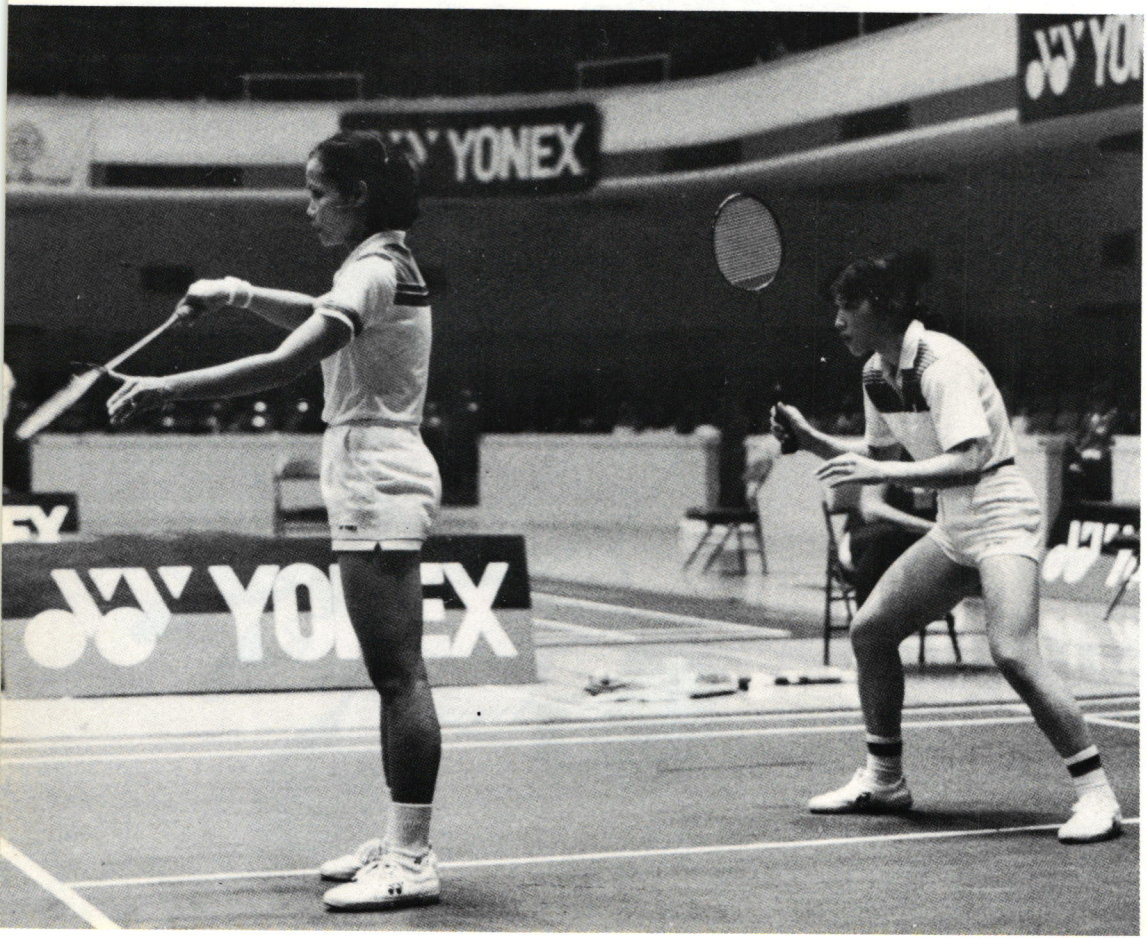
全英チャンピオンの面目をかけて頑張ったペリー・ウェブスター組（イギリス）





黄善愛・金練子組（韓国）はベリー組に対して大善戦

米倉はイメルダ（左・インドネシア）と組んで出場



勝利へひた走る
鮮烈のプロショップ

ラケットショップ元町®

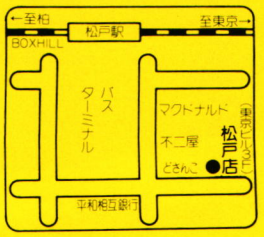
ご要望があればどこへでも、
最高のスタッフが……!!

とんで! まわって!
コーチして!!

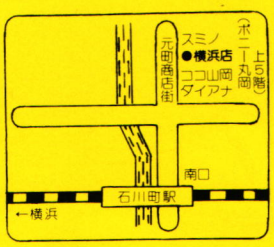
無料巡回コーチング・サービス



®



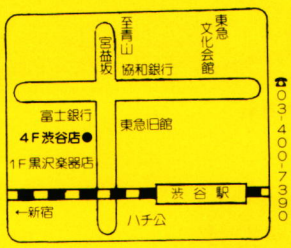
●松戸店 バドミントンプロショップ
☎0473-64-6884



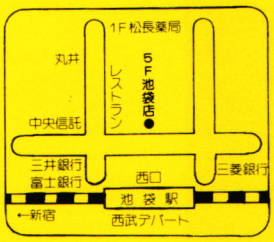
●横浜店
☎5F テニスフロア
045-651-9210
☎4F バドミントンフロア
045-622-7133



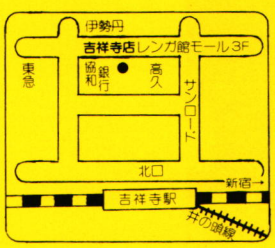
●藤沢店 テニスバドミントン
☎0466-26-2552



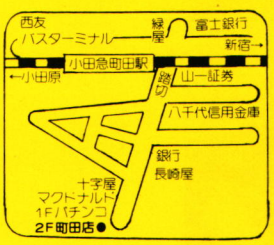
●渋谷店 バドミントンプロショップ
☎03-400-7390



●池袋店 バドミントンプロショップ
☎03-988-0215



●吉祥寺店 バドミントンプロショップ
☎0422-21-7890



●町田店 バドミントンプロショップ
☎042-728-6050

バドミントン9

❶ グラフ ワールドゲームスから	㉜ 銭谷欽治 チャンピオンをめざせ
❿ 第20回全日本教職員大会 群馬、悲願の初優勝	㉞ 第11回全国中学校大会 男子は桜山、女子は四条畷
⓬ 第20回全日本教職員大会 北橋、伊東が単を制す	㊱ 第11回全国中学校大会 技術より マナーの低下が心配より
⓮ 第14回日韓交歓競技 韓国が実力上位	㊳ 四谷健二郎 メディカル・アドバイス
⓰ 日体大、東女体大が団体初優勝 第24回東日本学生	㊶ グラフ 第11回全国中学校大会から
⓲ くたばれアマチュアリズム いま一人一人が考えるとき	
㉙ 海外トピックス 第12回トマス杯組み合わせ決まる	
⓳ 海外トピックス 賞金ランキング発表	

◇表紙デザイン＝野間デザイン室，本文カット＝長谷部憲和

◇今月の表紙＝第32回インターハイ、女子の三冠王となった陣内貴美子選手（熊本中央女子）

第20回全日本教職員大会

団体戦

群馬、悲願の初優勝

ベテラン今井の目に涙。女子はダークホース・宮城が本命・東京に完勝

第20回全日本教職員バドミントン選手権大会は、8月8日から12日まで福島県郡山市の郡山市体育館、安積女子高体育館で開かれた。

今大会は〝20回記念大会〟ということで、日本教職員連盟では運営に例年にも増して力を入れ、男女ともに若い選手の参加が多く、盛り上りのある大会となった。

一般男子団体▼準々決勝

石川 3―2 神奈川
三重 3―0 宮城
滋賀 3―0 和歌山
群馬 3―1 福井A

▼準決勝

石川 3―2 三重
群馬 3―2 滋賀

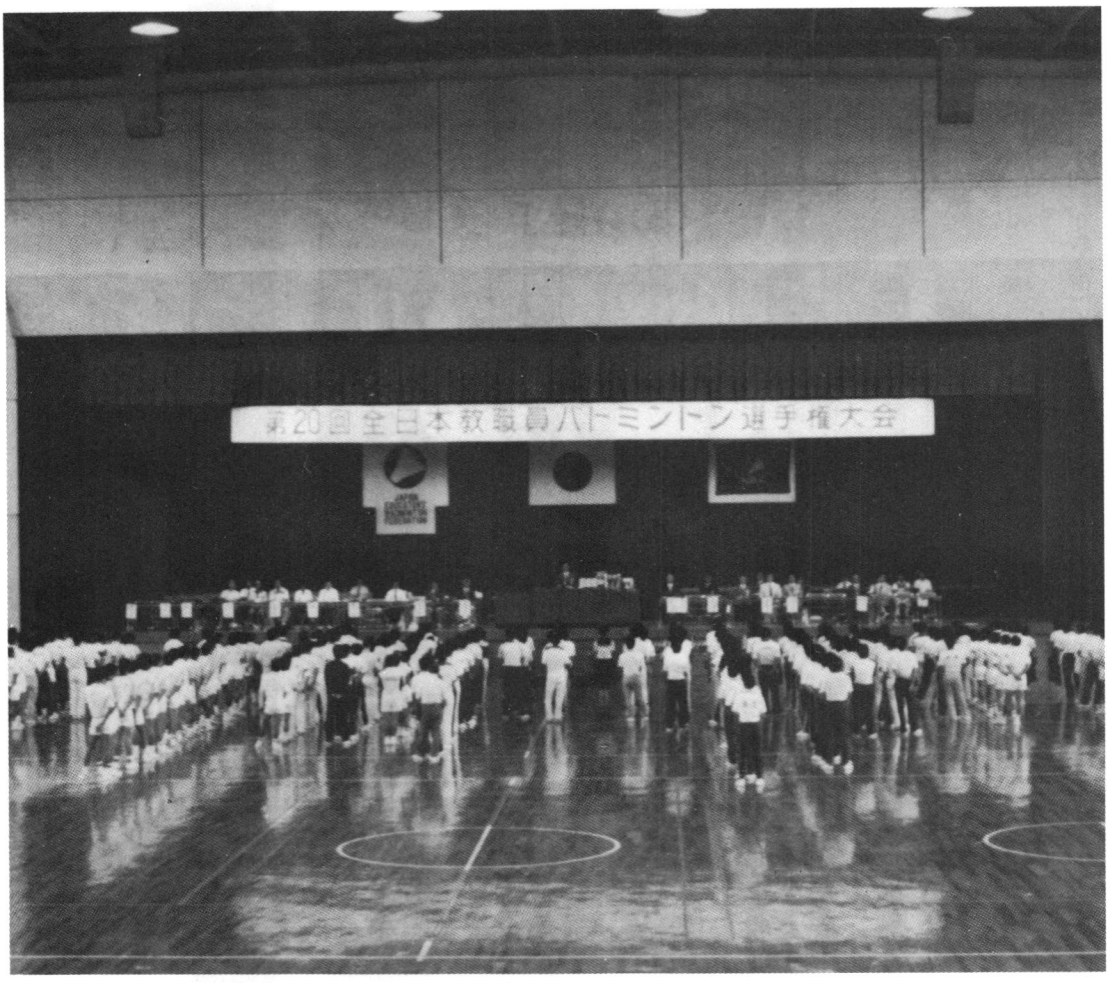
▼決勝

群馬 3―1 石川

今井	(15―9)		(15―2)	栗原
栗原	(18―4)	2	(15―4)	今井
錦木	(15―7)		0	舛田
秋庭	14―17	2		水内
錦木	(15―11)		1	宮崎
0	(キケン)			西川
2				舛田

◉石川はエース長谷川進がメンバーから抜けたため、舛田が単複に大車輪の活躍をし決勝までコマを進めてきた。

一方の群馬は〝万年優勝候補〟の汚名をそそぐべく今井を中心



に一丸となっての戦いぶりであった。とくに、準決勝が最大のヤマ場。今年の国体開催県で練習十分の滋賀は、新人北橋（比叡山高→日体大）の加入を得て、大きく戦力アップしており、実力は甲乙つけがたいところ。しかし、群馬は、今井・栗原、鏑木・秋庭のペアがダブルスを連取、一気に攻勢をかけ、ねばる滋賀をつき放し、3―2で決勝進出を果たした。

決勝は第2ダブルスで石川の宮崎・西川が健闘したが及ばず、群馬は念願の初優勝をとげた。

ベテラン今井は栗原とのダブルスでスピン・サービスを駆使して着実にポイントをあげ、チームの索引車としての役を果たした。

一般女子団体▼準々決勝

滋賀 3―2 栃木
宮城 3―0 大阪
千葉 3―1 福島
東京 3―2 石川

▼準決勝

宮城 3―2 滋賀
東京 3―0 千葉

▼決勝

宮城 3―0 東京
鹿野 2（15―7 15―10）0 藤井
樋渡 松枝

山口 2（15―3 12―15 15―8）1 山本
佐々木 菊地
樋渡 2（11―6 11―5）0 藤井

⊙女子団体戦は相変らず参加チームが少なく（13）、もう一つ活気が不足していたが、その中で男子同様、国体開催地の滋賀が健闘した。しかし、谷が負傷し途中棄権したため、惜しくも決勝進出はならなかった。

この幸運に恵まれての宮城と優勝を争ったのは東京。藤井、松枝という強力な新人の参加で東京の楽勝かと思われたが、意外にも3―1―0のストレートで宮城に凱歌が上がった。

勝因は何といっても鹿野と樋渡の気魄であろう。第1ダブルスで藤井・松枝と対戦したが終始先手を取って攻めまくり、押し切った。

樋渡はシングルスでも藤井を一方的に攻め、藤井に切返しの余裕を与えなかった。東京としては、この藤井・松枝で1ポイントもあげられなかったのでは準優勝もやむをえないところだった。

成壮年団体▼準々決勝

熊本 2―0 新潟A

個人戦

北橋、伊東が単を制す

複は西村・北橋組、藤井・松枝組

青森 2—0 福岡
滋賀 2—0 富山
石川 2—0 北海道

▼準決勝

熊本 2—0 青森
石川 2—0 滋賀

▼決勝

熊本 2—0 石川
工藤・稲津 2（15—7 18—13）0 原・和田

⊙熊本のチーム力は今年も安定していたが、石川がよく食いついた一戦。30代ダブルスで原・和田が第1ゲームセッティングにもちこみ、つづく40代ダブルスでも往名の名プレーヤー北方のがんばりで、第1ゲームを先取するという健闘をみせた。しかし、いずれも後半〝息切れ〟の感があり、惜しい準優勝だった。

南・西田 2（15—10 15—7 7—15）1 北方・西村

一般男子シングルス▼準々決勝

阿部（埼玉） 2—0 舛田（石川）
西村（滋賀） 2—1 今井（群馬）
水内（石川） 2—1 秋庭（群馬）
北橋（滋賀） 2—0 栗原（群馬）

▼準決勝

西村 2（15—3 15—11）0 阿部
北橋 2（15—1 15—12）0 水内

▼決勝

北橋 2（15—11 15—9）0 西村

⊙滋賀県勢の決勝となり、新人北橋が西村（龍夫）を突き放した。北橋は組合せにも恵まれ、決勝まで順調に勝ち上がったが一方の西村は、4回戦で神戸（福井）、5回戦で仲尾（大阪）、準決勝で今井と苦しい戦いを突破しての決勝進出だった。やゝ単調な西村を北橋は前後にゆさぶり、スタミナの消耗をさそって一気にケリをつけた。

このほか、ベスト4に入った阿部の健闘が光った。3回戦で西村（金治・滋賀）第1ゲームを奪われると、第2ゲームからはドロップとクリアーで〝持久戦〟にもちこんだ。西村は早めに攻めて活路を見出そうとするが阿部の固いガードを破れずしだいに体力を失い、最後は精根尽き果てたという様相であった。

そして準々決勝でも、昨年2位の舛田にせり勝ち、みごとな活躍ぶりだった。

一般女子シングルス▼準々決勝

大島（栃木） 2—0 藤井（東京）
伊藤（石川） 2—0 青木（滋賀）
宮野（石川） 2—1 松枝（東京）
門間（和歌山） 2—0 山中（大阪）

▼準決勝

伊東 2（11—4 11—1）0 大島
宮野 2（キケン）0 門間

▼決勝

伊東 2（11—3 11—1）0 宮野

⊙伊東（旧姓石田）は、もとナショナルチームだけあり、その実力は教職員の中では群を抜いており、まったく危げなく優勝をとげた。

決勝も同僚の宮野に対し一方的なゲーム展開で、やや物足りない感じすらあった。

藤井、松枝、青木といった新

人がもう一つカベを破れないなかで、門間の活躍は立派だった。団体戦の間も、夫君を拍手にサブ体育館で熱心に練習をしており、その執着心と集中力は若手への無言の教訓となったはずである。

一般男子ダブルス▼準々決勝

浅沼・渡辺 2—0 西村・藤原（三重）
関・落合 2—0 水内・西川（東京）（石川）
山本・米山 2—1 斉藤・佐藤（和歌山）（青森）
北橋・西村 2—1 仲尾・川上（滋賀）（大阪）

▼準決勝

関落合 2（15—10 17—16 2—15）1 浅沼渡辺
北橋西村 2（18—15 15—9）0 山本米山

▼決勝

北橋西村 2（15—8 15—12）0 関落合

◎北橋・西村（金沿）の若手ペアの完勝だったが、敗れたとはいえ、関・落合組の活躍は特筆ものであった。今年36歳のベテラン関は、じっくりシャトルを散らして相手ペアの弱点を見抜き、一転して攻撃をたたみかけるというプレーで、ひと味違うものを見せつけた。

昨年のチャンピンペアである神戸・高岡組（福井）初戦でで退えた浅沼・渡辺組は、準々決勝で滋賀の大型ペア西村（龍夫）・藤原組を降し、準決勝も関・落合組から1ゲームを先取する元気なところをみせた。

しかし、レーシブの甘さと単調な攻めを突かれ、決勝進出は果たせなかった。

一般女子ダブルス▼準々決勝

本吉・豊田 2—0 山本・菊池（千葉）（東京）
藤井・松枝 2—0 小椋・三本木（東京）（福島）
鹿野・樋渡 2—0 宮野・伊東（宮城）（石川）
池田・南雲 2—1 大島・金田（群馬）（栃木）

▼準決勝

藤井松枝 2（18—15 15—6）0 本吉豊田
鹿野樋渡 2（15—3 16—17 15—11）0 池田南雲

▼決勝

藤井松枝 2（15—7 15—6 15—18）1 鹿野樋渡

◎団体戦決勝で貴重な星を落としている藤井・松枝は、雪辱を期して燃えた。第1ゲームこそセッティングの末落としたが、第2ゲームからは本来のペースを取りもどし、一方的にリードを保ったまま連取した。珍しく地元テレビの中継があり、白熱した内容で期待にこたえた一戦であった。

30歳以上男子ダブルス▼決勝

原和田 2（不明）0 清水二上（石川）（富山）

30歳以上男子シングルス▼決勝

原（石川）2（15—2 15—9）0 藤上（滋賀）

40歳以上男子ダブルス▼決勝

南西田 2（15—3 15—9）0 北方村西（熊本）（石川）

40歳以上男子シングルス▼決勝

佐々木（北海道）2（18—15 15—5）0 西田（熊本）

50歳以上男子ダブルス▼決勝

本郷沢田 2（15—11 5—15 15—4）1 柳田鈴木（熊本）（東京）

50歳以上男子シングルス▼決勝

柳田（東京）2（15—1 15—2）0 本郷（熊本）

30歳以上女子シングルス▼決勝

国門（滋賀）2（11—2 11—4）0 杉原（福島）

混合ダブルス▼決勝

工藤大島 2（18—17 15—7 12—15）1 若生鹿野（栃木）（宮城）

◆念願の初優勝

群馬県といえば今井を軸に、かつては桐生、最近では栗原、岩崎、秋庭、鏑木といった日体大OBで固めた実力あるチーム。ところが、どういうわけか教職員大会では優勝に見放され、一部では〝万年優勝候補〟とささやかれるほどだった。今井も毎年、「今年はやります」といいながら果たせず、焦りの色が濃くなるばかりだった。今大会はこれといった補強もできなかったが、チーム一丸となっての迫力は十分で、多くを語らぬ今井の表情には、並々ならぬ決意がみられた。そのかいあって、みごとに初優勝をとげ、「おめでとう」と今井に手をさしのべる人は多く、「どうもありがとうございました」とうなずく今井の目にはキラリ……。

◆さすが〝助教授〟

東京都の関一試選手は、本大会の単複に覇を唱えた名プレーヤー。165cm余の小柄な体ながら、頭脳的なプレーと巧みなラケットさばきで学生時代（聖学院高→早大）から注目されていた。しかし今年36歳となり、優勝からはやや遠ざかっていた。ところが今大会ではダブルスであれよあれよという間に決勝へ進出。しかもその間の勝ち方がじっくり相手ペアに打たせ、走り回らせたあげく、そのウィークポイントを見出しての徹底攻撃で、関選手ならではの展開ぶり。みずからの体に電極を取りつけてゲーム中のデータを集めビデオで研究する熱心さとインサイドワークの勝利といったところ。スタンドからは〝さすが助教授！〟の声しきり。ちなみに関選手は現在早大の助教授。

◆ミセスがんばる

女子シングルスでベスト4に入った門間選手は門間幹夫選手の夫人で、学生時代（旧姓小片・日体大）はウェスタン・グリップからの威力のあるショットで定評のあった選手。しばらく第一線から遠ざかっていたが、今回の活躍でその実力を証明したかたちとなった。

第14回高等学校日韓交歓

韓国が実力上位を

金練子ら大活躍

第14回日韓交歓バドミントン競技大会は、8月22・23日、ソウル市YMCA体育館で開催された。

全英オープンで黄善愛が女子シングルスを圧勝したことはまだ記憶に新しいが、今や韓国、とくに女子の動向には日本ならずとも注目するところ。

今大会も、第一日目の男子日本選抜チームが、忠州工高から3―2で勝利を収めたほかは、韓国側の圧倒的な強さが目立っていた。

◎第1日目（8月22日）

▼男子の部

日本選抜チーム　3―2　韓国忠州工高

村松　博　1　15―8　9―15　6―15　2　成漢国

羽田　義仁　2　徐成珀

松野　修二　2　15―7　9―15　2　韓徳沫

宮　健次　0　伊鐘烈

村松　博　0　12―15　6―15　2　成漢国

松浦　進二　2　15―11　18―17　0　徐成珀

松野　修二　2　15―7　15―7　0　伊鐘烈

▼女子の部

韓国聖旨女高　3―2　日本選抜チーム

金練子　15―1　11―5　2　山内美子

柳尚希　石崎咲知子

季明善　8―15　15―9　8―15　陣内貴美子

邱明照　井村由美

金練子　2　11―0　11―3　0　高峰尚子

季明善　1　8―11　9―11　11―5　2　陣内貴美子

◎第2日目（8月23日）

▼男子の部

韓国選抜チーム　4―1　日本選抜チーム

朴桂奉　15―10　11―1　2　松野修二

朴香圭　2　0　宮健次

金焔銀　15―10　9―15　18―15　2　村松博

季昌柱　0　羽田義仁

朴桂奉　2　15―11　17―14　0　松浦進二

成漢国　2　15―9　15―2　0　松野修二

徐成珀　2　15―8　15―10　0　村松博

柳尚希　2　11―1　11―1　0　山内美子

▼女子の部

韓国選抜チーム　5―0　日本選抜チーム

金充淑　15―13　12―15　15―7　1　陣内貴美子

宋恩周　2　井村由美

李美林　15―1　15―4　2　山内美子

金綿姫　0　石崎咲知子

金練子　2　11―3　11―6　0　陣内貴美子

宋恩周　2　11―1　11―0　0　山内美子

朴賢淑　2　11―3　11―5　0　高峰尚子

意欲を生む敗北

女子監督・工藤勇参（熊本中央女高教）

この度、第14回目の大会に女子監督の大任を任されましたが、はじめに伊藤鉱一団長、遠井稔男総監督、大世古吉弘総務、金子寛男子監督、佐藤秀夫コーチの各先生方の良きご指導を得て、5泊6日の遠征が無事終了しましたことを、紙面をお借りして厚くお礼申し上げます。

さて、女子選手団は新潟青陵高2名、熊本中央女子高4名の計6名のチーム編成でした。

私は、過去2回この大会に参加させていただいた折りに、目の当たりに見たことでもあり、7年連続敗北している状況を聞かされもし、今年こそはと雪辱を期しておりました。

また、遠井団長の女子チームに賭ける意気込みを感じ、私も今回はかなり抵抗できるものと、大会前のミーティングでも佐藤先生に相談、精神的要素が大きく試合の流れに影響をおよぼすことを選手に説き、1ポイントでも多く取るようにとの指示を強くしました。

第1日目は、韓国高校団体1位の聖旨女子高（単独チーム）と対戦しましたが、オーダーの関係もあって第1ダブルスは落としたものの、第2ダブルスではファイナルゲームの大接戦の末、やっと1ポイントを奪取することができました。

続くシングルスに期待を寄せたのですが、1対2となり、トータル2対3で敗れてしまいました。

しかし、各ゲームは激しい伯仲戦であったことを記しておきます。

その夜のミーティングでは、2日目は選抜チームであることから、今日のファイトで臨むなら相当いける。とくに男子は3対2で勝利を収めたということもあり、明日は女子も3対2で取るぞと鼻息も荒かったのですが、結果は0対5、大敗でした。

昨日の接戦で安心したのでしょうか。

相手に立ち向かう大切な緊張感が、抜けてしまったように思えました。

バドミントンがネットをはさんでの喧嘩であるならば、昨日より今日が、より張りつめた精神状態でなければならなかったはずなのですが…。

ここに、選手達に対する監督としての適切な忠告が欠けていたことを、選手一人一人に対し大変申し訳なく思う次第です。

韓国選手団の強さは、一体何であったのだろうか。

国家体制の違いもありましょう。

競技種目を絞っての強化と、勝つことへの恐しいまでの執念。

バドミントン・プレーヤーに最も必要なパワー。

スタープレーヤーへの強い憧れ…。

そして、過去3度の大会を通して知った、全く変らないひたむきな姿勢。

どれを切っても切り離せないこれらの要素が、微妙に絡み合って今日の〝強い韓国〟ができ上がったと考えられます。

小さい頃からバドミントンを始めた選手が殆んどということは、条件は日本選手と同じであり、バドミントン・スタイルも代わるところはないと思うのですが。

佐藤秀夫先生は「ラリー中の体の動きが少しづつ速いので、連続してくると大きな差になり試合が長くなるとはっきりしてくる。つまり日本は長時間耐えうるスタミナと、シャトルを追いまくる精神力が総合的に劣っている。」と分析されています。

私達は、今後末永く続くであろうこの大会で、必ずや勝てるよう選手の育成に意欲を燃やし、日々の努力を怠らぬよう誓ったものでした。

選手諸君、試合では敗れましたが、これから更にバドミントンが好きになり、練磨を重ね精神されることを祈り、この遠征が実りあるものであったことを感謝致します。

第24回東日本学生

日体大、東女体が団体初優勝

第24回東日本学生バドミントン選手権大会は、8月25日から5日間、札幌市中島スポーツセンター別館、北海道大学体育館で開催された。

▽男子団体1回戦

国士館大 3―0 北星学園大

▽同2回戦

中央大 3―0 国士館大
早稲田大 3―0 北教大札幌
日体大 3―0 北海学園大
法政大 3―1 日本大

▽準決勝

中央大 3―1 早稲田大
日体大 3―1 法政大

▽同3位決決戦

法政大 3―1 早稲田大

▽同決勝

日体大 3―1 中央大

▽女子団体1回戦

日体大 3―0 慶応義塾大
北女短大 3―0 大妻女大
日女体大 3―0 北教大札幌
東女体大(キケン)東北福祉大

▽同準決勝

日体大 3―0 北女短大
東女体大 3―0 日女体大

▽同3位決定戦

日女体大 3―0 北女短大

▽同決勝

東女体大 3―1 日体大

▽男子シングルス5回戦

西山(中大) 2―0 保科(法大)
大島(日体大) 2―0 石場(日体大)
蘭(早大) 2―0 久郷(法大)
権藤(日体大) 2―0 大通(中大)

坂井(日体大) 2―0 細谷(中大)
宮本(中大) 2―0 青木(日大)
山本(法大) 2―0 三田美(日大)
井上(日体大) 2―0 関根(日体大)

▽同準々決勝

西山2 (15―2, 15―6) 0 大島
権藤2 (15―0, 15―4) 0 蘭
坂井2 (15―11, 15―6) 0 宮本
山本2 (15―4, 6―15, 15―9) 1 井上
西山2 (15―7, 7―15, 15―12) 1 権藤

▽同準決勝

西山2 (15―2, 15―4) 0 坂井
権藤2 (15―7, 15―11, 6―15) 1 山本

▽同決勝

坂井2 (15―2, 15―11) 0 山本

▽同3位決定戦

笠松(東女体) 2―1 小野(日女体)
野口(日体大) 2―0 熊本(東女体)
大野(日女体) 2―1 浜田(東女体)
白松(筑波大) 2―0 高鴨(日体大)
川島(東女体) 2―0 藤本(日女体)

▽女子シングルス4回戦

野口2 (11―6, 11―4, 6―11) 1 笠松
白松2 (11―4, 11―1) 0 大野
川島2 (11―3, 11―3) 0 田村
野上2 (11―6, 11―8, 3―11) 1 原田
白松2 (11―6, 11―0) 0 野口

田村(日体大) 2―0 本橋(日女体)
野上(日体大) 2―0 高峰(日女体)
原田(日体大) 2―1 長尾(日女体)

▽同準々決勝

▽同準決勝

川島 2 (11 11 / 3 3) 0 野上

▽同3位決定戦

野口 2(キケン)0 野上

▽決勝

白松 2 (11-8 8-11 12-9) 1 川島

▽男子ダブルフ4回戦

丹藤・楠美 2—0 中島・高崎（北海学園）（法大）

山本・古賀 2—0 高橋・桜場（東北学院）（法大）

坂井・権藤 2—1 五十嵐・羽田（法大）（日体大）

蘭・木内 2—1 千葉・細谷（早大）（中大）

井上・大島 2—0 六川・見城（日体大）（日大）

吉村・小西 2—0 久郷・本石（中大）（法大）

貴田・岡野 2—1 関根・石場（法大）（日体大）

西山・宮本 2—0 保科・高橋（中大）（法大）

▽同準々決勝

丹藤 楠美 2 (15-4 15-6) 0 山本 古賀

坂井 権藤 2 (17-14 15-2) 0 蘭 木内

井上 大島 2 (15-8 15-7) 0 吉村 小西

▽同準決勝

西山 宮本 2 (15-6 15-10) 0 貴田 岡野

丹藤 楠美 2 (15-5 11-15 15-4) 1 坂井 権藤

井上 大島 2 (15-0 15-6) 0 西山 宮本

▽同3位決定戦

井上 宮本 2 (15-13 15-11) 0 坂井 権藤

▽同決勝

井上 大島 2 (18-17 10-15 15-6) 1 丹藤 楠美

▽女子ダブルス3回戦

小野・高峰 2—1 本橋・山下（日女体）（日女体）

川島・熊本 2—0 小路・高橋（東女体）（日体大）

西本・森 2—0 野本・日向（東北福祉大）（東女体）

今川・野上 2—1 佐藤・和田（日体大）（北女短大）

原田・藤井 2—0 成松・竹中（日体大）（北女短大）

永沢・近藤 2—1 広瀬・奥村（秋田短大）（日体大）

田村・野口 2—1 皿井・永尾（日体大）（日心体）

浜田・清藤 2—0 染谷・三枝（東女体）（大妻女大）

▽同準々決消

小野 高峰 2 (15-10 15-10) 0 川島 熊本

今川 野上 2 (15-5 15-1) 0 西本 森

原田 藤井 2 (15-8 15-3) 0 永沢 近藤

浜田 清藤 2 (15-6 15-4 9-15) 1 田村 野口

▽準決勝

小野 高峰 2 (15-12 15-11 9-15) 1 今川 野上

原田 藤井 2 (15-0 15-1) 0 浜田 清藤

▽同3位決定戦

今川 野上 2 (15-11 15-12) 0 浜田 清藤

▽同決勝

小野 高峰 2 (15-12 15-12 11-15) 原田 藤井

例によって、関東勢の強さが群を抜いていた中で、常勝・中大（男子）、日体大（女子）に、替って、男子・日体大、女子・東女体大が初の団体優勝に輝いた。これは、すべての大会を通しての団体初優勝でもあり、学生界のひとつのジンクスが破れたともいえる快挙であった。

男子団体決勝は、中大の西山・宮本組が日体大の権藤・石場組を破って幸先よいスタートを切ったが、日体大は1年生コンビの井上・大島組の活躍でタイとし、続く4年生同士の争いとなった第1シングルスで、いつもの粘りを欠く宮本（中大）に坂井（日体大）が競り勝ち優勝へ大きく近づいた。

第2シングルス、西山対権藤は団体戦決勝にふさわしく白熱の一戦となったが、権藤は西山の攻撃を拾いまくり、第2ゲームは転倒の連続で長いラリーをものにするなど執念を見せて押し切り、〝打倒西山〟を果たし、日体大に念願の初優勝をもたらした。

日体大の優勝は、まさに4年生・坂井、中堅・権藤、新人・井上、大島の力がうまく噛み合ったチーム力の勝利であったが、これで巻き返しを狙う中大、法大とともに、秋のリーグ戦、インカレ戦線がますます激化すること必至である。

女子も、東女体大が川島、熊本ら4年生の踏ん張りで、強敵日体大を倒し悲願を達成した。

川島は、いうまでもなく実力あるプレーヤーに違いないが、その気の弱さからなかなか力を発揮できずにいた。

しかし、今大会は単複とも気合いの入った試合を展開し、初優勝の大きな原動力となり進境著しいところをみせた。

また、パートナー・熊本も、高校時代は無名の存在、大学へ入ってからも長い間Bブロックの選手であったが、ここにきて急成長、あっと驚くような活躍をみせてくれた。

これは、下積みの選手達に与える影響は大きく、〝やればできる〟ことを示す良き手本となるものである。

個人戦では、男女とも団体戦の成績を反映してか、日体大、東女体大の躍進ぶりが目をひいた。

とくに、坂井は関東学生2位の山本に対し、相手の動きをよく読み切ったような素晴らしいレシーブをみせ、決定打を完全に封じて波に乗った勢いを感じさせた。

また、権藤も再び西山とファイナルゲームに持ち込んで、十分に優勝を狙う実力を備えてきたことを証明。

男子シングルスを制した西山は、やはり安定感は随一であったが、何か今ひとつ昨年のような迫力に欠けていたのではない

だろうか。本来は豪快なショットの復調を期待したい。

男子ダブルスでは、1年生ペアの井上・大島組が得意の速攻を生かして初優勝を飾ったが、決勝戦は4年生ペア丹藤・楠美組（法大）が意地をみせて大激戦となり、新旧の対決は手に汗を握るものだった。

女子シングルスは、関東学生に引き続いて白松（筑波大）が連覇。

小柄ながら、バネのある体で攻守にソツがなく、関東では無敵の存在になってきた。

これでインカレで対決する北田戦が面白くなってきた。

この大会、関東学生の安定した実力からすれば、波乱を巻き起こす可能性は十分あるようだ。

女子ダブルスは、小野・高峰（日女体大）組が初制覇をなし遂げたが、東女体大勢の頑張りに比べ、日体大勢に元気がみられなかったのが寂しかった。

（学連・花岡、羽田）



初めての団体優勝に喜び溢れる東女体大チーム

アマチュア論争に思う

くたばれアマチュアリズム!!

一人一人が考えるとき

ここに来てまた〝アマチュアリズム〟についての論争が再燃している。

九月の声を聞いて間もなく、国際陸連（ＩＡＡＦ）が「選手のＣＭ出演を許可する」と発表したからだ。

世界のスポーツ界をリードするＩＡＡＦの決定だけに、これから各競技団体への影響力が強いと考えられ、協会、選手、企業、それぞれの動向が注目される一方、アマチュアリズムは今後どうあるべきかがこの問題の波及のカギを握っているとみられ、ますます論議が沸騰すると思われる。

＊　＊　＊

選手、協会役員、指導者、そして関連企業関係者、もちろん一般愛好者も含めてバドミントン界におけるアマチュアリズムとは、いったいどんな存在なのだろうか。

ひと言でいうなら、神棚の横に貼られた黄ばんだ火の用心の札でしかない。のが実情。

貼り紙があるだけで、なんとなくご利益があるような気分になったり、守護神を得たような錯覚に陥っているだけ。

今や、アマチュアリズムをみつけることは難かしい。

アマチュアリズムはスポーツ界だけの…

アマチュアリズムは、火の用心の貼り紙より黄ばんでしまった。

現実は、金がなければスポーツもできない時代である。

ラケットを買うには一万円札が必要だし、シャトルコックは一打が三千円も四千円もする。

メーカーからのラケット贈呈を選手は有難がって受け取り、シャトルコックの寄贈に指導者が快く応じることは常識として黙認されている。

しかしだからといって、アマチュアリズムに反する行為だからといってこれを非難することは誰にもできない。

火の用心の札よりも、警報器、消火器が必要な時代なのだ。

アマチュアリズムを神格化する論争は意味を持たない、アマチュアリズムにテコ入れし新アマチュアリズムを創り出さなければならない時代ではないのか。

いったいアマチュアリズムってなんだろう。

もし現在アマチュアリズムが生存するとするなら、それは国際試合はもとより全日本クラスの大会とは縁のない、一般愛好者に限られているといっても過言ではない。

アマチュアとは「スポーツで利益を得たり、スポーツで得た名声を利用してはならない」ものであり、アマチュアリズムがこれを守るための道徳であるなら、古人がこれを作り出した意図は理解に苦しむ。

どうも道徳律的な建前の裏に、スポーツ自体を小馬鹿にしたような、スポーツ愛好者を卑下したようなうさん臭い本音ともいえる視線を感じてならない。

しかし敢えていいたい、ラケットを貰おうとシャトルを貰おうと構わないではないかと。

金品を受け取らないことがそれほど格調高いことなら、芸術家はどうなる。

音楽家は演奏をして、画家は絵を売って…それぞれ生計を立てている。

これを、スポーツマン以下の商業主義者と呼ぶわけにはいかない。

芸術の世界でアマチュアリズム云々など、聞いたことがない。

どうして「純粋で気高い」アマチュアリズムが、スポーツの世界にだけ根強く存在するのか。

もしアマチュアリズムに価値があるなら、それを理解し賛美する人が頑固に徹することのみにあって、他人に押し売りしたりプロとアマの間に境界線を引くことではないような気がする。

神棚へ祭っておくほど崇高であるのは、その信仰を持つ者が仰ぐからであり、信仰心や道徳観を人に押しつけることはできないはず。

〝イズム〟がスポーツ界では知らぬ間に〝法〟となってしまった。

アマチュアリズムが生まれたのは、伝統と形式を重んじる国のスポーツをするのになんの不自由もなかった上流階級あたりということは想像に難くないし、それが現代まで生き続けスポーツをしたくてもできない人にまで押しつけるとは「貧乏人はスポーツをするな」式の強者の横暴というもの。

プロを、プロまがいの選手を競技会から締め出しアマだけの大会を主張してきたアマチュアリズムこそが、勝利至上主義の元凶ではないのか。

プロとアマの境界線はいったい何のため

プロとアマの大会を区別することが、アマ規定に触れなければという発想を助長し、エスカレートさせ、プロまがいのアマができあがった。

あるときは国、あるときは企業という隠れ蓑がアマの大会では堂々と通用する。

共産圏ではステートアマであるし、資本主義国では企業丸抱え、今やアマチュアリズムは完全に死滅した。

アマチュア競技は、すでに建前だけで成り立っていることに早く気がつくべき、いや気がついてはいるはず、早く認めるべきである。

選手が金品を受け取ることより、アマ競技団体がプロまがいの選手の出場を黙認することの方が、よっぽどアマチュアリズムの凋落ではないか。

スポーツ競技会は、すべてオープン大会であるべき。

バドミントンの世界では、ヨーロッパを中心にビッグイベントが次々とオープン化している。

時代の波と、選手の本音が大会運営に反映されてきた結果である。

アマがプロに敗れても恥ずべきことではない、むしろプロに立ち向うアマの闘志こそが、本

日本体協は何を目指し、考えているのか

来のアマチュアリズムに近づくものだ。

プロとかアマの取捨選択は個人の意志、プロが目的であっても、スポーツを継続するための手段であっても、純粋プロであっても純粋アマであっても構わないではないか。プロスポーツはひとつなのだ。

プロとアマの間に境界線を引くことによって、われわれは誤まった観念をマスコミや指導者によって植えつけられてきた。「アマチュア精神にのっとり正々堂々と……」「決して試合を棄てないプロ根性」……。

冗談を、あたかも正論のような真顔でいっては困る。

正々堂々と戦うのは、なにもアマの専売特許ではない、スポーツとは、プロアマを問わず正々堂々と戦うもの。

最後まで試合を棄てないのはプロ根性でもなければ、アマ精神でもない、当たり前なのだ。

こんなうんざりするような表現は、もう聞き飽きた。

飾りをつけて本質を隠したつもりでも、やがてメッキははがれる。

スポーツ界は本来、選手が引っ張っていくもの、協会役員は尻候であり、援護者である。

しかし、中心になるべきプレーヤーは現実にはあまりにも弱い。

将来の生活に不安を抱え、偽善的アマに甘んじなければならない立場がそうさせている。

選手にモノいう口を与え、役員と一丸になってこそ競技の繁栄を期待できるというもの。

アマチュアリズムをイズムとして復活させるためにも、すべてを洗い直し、一人一人が真剣に考えてみる時機にきているのではないか。

日本体協という組織が、何を目指し、考えているのか、浅薄不敏虚仮愚昧にしてよく知らない。だが、ぼくみたいに、多くは自分のせいではあるし、またスポーツと親しみにくい時代、環境の中に生れ育っても、だらだらと申し述べた如き、運動との関わりは持てたのだ。現在、テニスがブームだ、ジョギングがどうしたといられるけれど、どうして往年の名選手たち、気持を一つにして、子供、若者たちに、スポーツに親しむチャンスを与えようとしないのが。本当にあなた方は、阿呆じゃないのか。

瀬古という目玉商品は、たとえていえば零戦だろう、山下さんは戦艦大和、あの岡山というノッポは、あれがスポーツマンなのか。権力欲、既得権の確保、縄張り争い、親方日の丸、頑迷固陋、表にアマチャアリズムをかかげ、裏では金もうけ、選手を手玉にとる奴隷商人、何の使命感もなく、若い生命についての洞察力もない手合いは、今こそ去るべきである。ぼくはスポーツをちゃんとやりたかったと、今思う。今の若者は、将来そう思う下地すらない。

ここに、作家・野坂昭如氏の一文を紹介したい。

「週刊文春」5月14日号に掲載された氏の連載エッセー〝右も左も蹴っとばせ！〟の一部であるが、まことに一般スポーツ愛好家の本音を言い得て妙ではないか。

氏はここで、アマチュアリズム云々を問題にするつもりはなかったのかも知れないが、当たらずとも遠からず、我が意を得たりと思うのは私一人ではあるまい。

＊　＊　＊

〔前略〕

原則としてプロが成立しなければ、スポーツ人口の底辺は拡がらない。日本の場合、公営ギャンブルの対象をのぞけば、野球くらいのものか。国技とされる大相撲は、その仕組みがかなり風変りだし、近代スポーツとはみなしにくい故、原則から外れる。ボクシング、レスリングも所詮興行であって、しかも、こちらは奇型をきそうのだ。他のボール競技は、ほぼ大学、企業のおかかえ、世間とは隔離された存在。

⊙読者の皆様へ

本誌6月号の「韓国チームのマネージャーはなんと日本人」の記事について、一部の方の誤解を招いたようですので、補足いたします。

それは、マネージャーすなわち監督と解釈されたことです。英語のmanagerは、「支配人、経営者、監督」という意味ですが、日本ではマネージャーというと、世話人といった意味で用いられています。

この日本流解釈にしたがって、チームの構成は、部長・監督・マネージャー・コーチ・選手となっているのが通例です。

本誌の記事も当然、日本流解釈によるマネージャー＝世話人という意味です。

とくに韓国の方々には、韓国チームの監督が日本人であるかのような印象を与えましたので、ここの補足説明させていただきます。

なお、日本流のマネージャーに相当する英語は、"teams'caretaker"が適当でしょう。

〈編集部〉

YAMAHA

フェアな精神とマナーを重んじる人のバド——ヤマハバドミントンラケット。YB50Imageのご好評に応え、新たに3モデルが登場しました。先進のCFRP技術と独自のアイディアを1本に結集した90gクラスモデルYB60。精悍なメタリックブラック、カーボンスチール製シャフトを採用した、高性能モデルYB40。やや固めのコシが特徴、フルスイング派にぜひお勧めしたいトーナメントモデルYB30。1世紀を越すバドミントンの歴史を受け継ぎ、さらに明日を見つめた個性豊かな4モデルです。いま、確かな腕との出合いを待つ。日本楽器製造株式会社

●YB60:￥10,000(カバー付)●YB40:￥7,000(カバー付)●YB30:￥5,500(カバー付)

YB60・40・30 同時新発売

資料請求〒104東京都中央区銀座7-9-18
日本楽器製造株式会社広告課TB、VE係

YAMAHA BADMINTON RACKET



緑のエンブレムバンダナプレゼント

期間中、ヤマハバドミントンラケットをお買い上げの方に新発売記念、緑のエンブレムバンダナをお送りします。
ご愛用者カードに必要事項をご記入のうえ係までご返送ください。
●期間9/1～10/31(当日消印有効)

シリーズになった、110年めのBAD.

Photo: YB60

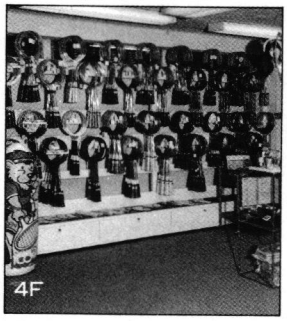
ずらり、4店勢揃い。

渋谷店

760㎡(230坪)の広々とした店内でゆったりショッピング。

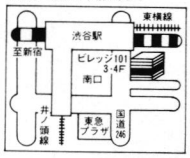


バドミントンコーナー



毎月曜日定休

東京都渋谷区桜ヶ丘町1-7(ビレッジ101ビル3·4階) TEL03-464-9251～2〒150
●営業時間/午前10時～午後7時30分
●日曜・祭日は午後7時まで

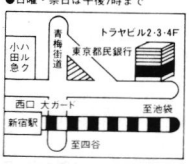


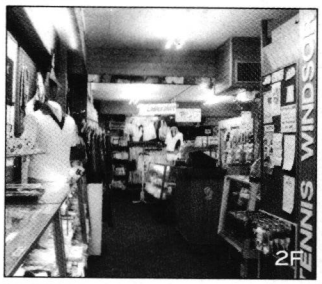
新宿店

落ち着いた雰囲気でお買いもの。各階それぞれの楽しさがいっぱい。

毎月曜日定休

東京都新宿区西新宿7-10-20(トラヤビル2·3·4階) TEL03-363-6848〒160
●営業時間/午前10時～午後7時30分
●日曜・祭日は午後7時まで







バドミントン·フロア

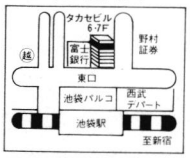


池袋店

つぶ揃いのテニス、バドミントン用品が店内にあふれんばかり。

毎月曜日定休

東京都豊島区東池袋1-1-4(タカセビル6·7階) TEL03-989-0401〒170
●営業時間/午前10時～午後7時30分
●日曜・祭日は午後7時まで



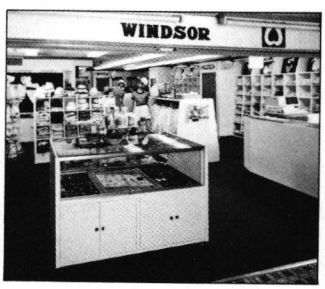




横浜店

ラケット、ウェア、シューズ……すべてに豊富な品揃え。選びやすい各コーナー。



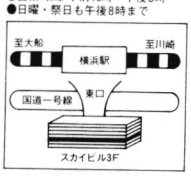


男性ウェア·コーナー



年中無休

横浜市西区高島町2-1 横浜駅東口
(スカイビル3階)TEL045-453-1785〒220
●営業時間/午前10時～午後8時
●日曜・祭日も午後8時まで



日本最大のテニス·バド専門店
WINDSOR RACKET SHOP

信頼のマーク WINDSOR ウインザー ラケットショップ。

G 30 YEARS
ラケットスポーツとともに30年

ザ・サイボーグガット。

独自の特殊構造が光る。ゴーセンガット群。
まさに科学が生命を与えた生きているガットだ。



ゴーセンガットは常に進歩を続けています。その先進の技術を余すところなく発揮しているのが、画期的な高性能繊維高分子ブレンド素材ベースのブレンドタイプ＆ミクロタイプ。そして、素材特性を生かし、ガットに生命を与えているのがゴーセン独自の特殊構造です。たとえば両端を密封した特殊油入り中空糸。封じ込めた特殊油は気温や乾湿の変化に敏感に反応して、ガットのテンションや反発力、弾性を一定に保ち、常に爽快な打球感を維持する役目をはたします。これはまさに科学が生命を与えた、生きているガット。ザ・サイボーグガットと呼ぶゆえんです。



ウインテックス・ブレンド
(10m・ゲージ0.75mm)
高性能繊維高分子ブレンド(特許出願中)／中空・特殊油入り(特許)／カーボン入り(特許)
1900BL　¥1,000



ウインテックス
(10m・ゲージ0.78mm)
超強力糸／中空・特殊油入り(特許)
1900　¥900



ハイ・シープ・ミクロ
トーナメントタイプ
(10m・ゲージ0.70mm)
高性能繊維高分子ブレンド(特許出願中)／超超極細ゲージ
1060MC　¥600

ラケットスポーツで世界をむすぶ

GOSEN

株式会社 ゴーセン
本　　社 ● 〒540 大阪市東区農後町4　☎ (06)942-5816代
東京支店 ● 〒111 東京都台東区蔵前4-14-2　☎ (03)862-6576代
福岡営業所 ● 〒810 福岡市中央区薬院1-4-8　☎ (092)712-5247代
北陸営業所 ● 〒921 石川県金沢市横川7-22　☎ (0762)47-0200代

メイビス



これでナイロンなのか。と驚きの声がきこえます。それが、これメイビス300。飛びの性能を、まさに水鳥球そのものにしてしまった、ヨネックスのスポーツサイエンス。ちょっと他には真似のできないナイロンシャトルコックです。カット、ショートサービスなど微妙なショットも安心です。それに、ヒットする瞬間の手に伝わる感覚も、耳に聞える打球音も、まさに本物。ぜいたくに、天然コルクを使った結果です。そのうえ、耐久力がまたぐんとグレードアップ。だから経済的。ひとつのシャトルコックで、長く使えます。また、コルク部テープと筒キャップのカラーをグリーン(短距離)、ブルー(中距離)、レッド(長距離)と飛距離別に色分けしてあり、季節(温度)、地域が違っても同じ状態でゲームが出来るように選べます。シャトルコックに押し寄せた科学の波。まさに大きく進歩。

パッケージ新発売!

ミントン協会検定合格球
学校大会使用球

YONEX®

水鳥球



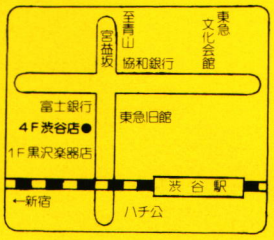


飛びは、
ピッタリ水鳥球。

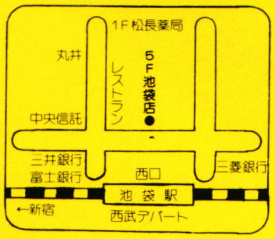
NYLON SHUTTLECOCK
MAVIS-300

3個入り

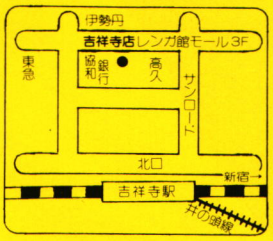
■日本バ
■全国中



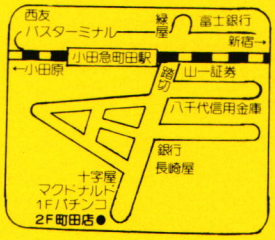
●渋谷店 バドミントン・プロショップ
☎03-400-7390



●池袋店 バドミントン・プロショップ
☎03-988-0215



●吉祥寺店 バドミントン・プロショップ
☎0422-21-7890



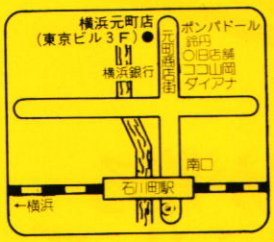
●町田店 バドミントン・プロショップ
☎0427-28-6550

ボクも狙うぞ 全国制覇！

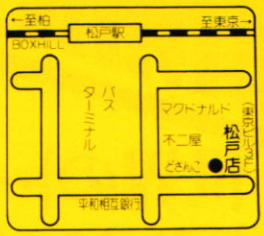
七番目の"松戸店"オープン
ズラリ揃った "七人の侍"
"エイトマン"出現の地は？

ラケットショップ元町®

ラケットショップ元町®



●横浜店
☎045-651-6622
テニス・バドミントン
0044551666211792180522370



●松戸店
☎047(363)-6284
バドミントン・プロショップ



●藤沢店
☎0466-26-2552
テニス・バドミントン

君は厳しさに
たえられるか

正社員若干名募集



®



RACKET BADMINTON STRINGS

世界のトーアが贈る バドミントンガットシリーズ



レオイナ　ホーン
LEOINA HORN S



グラファイト　レオイナ
GRAPHITE LEOINA 66



レオイナ　シープ
LEOINA SHEEP 66



トーア　ストリングス
TOA-STRINGS SSW



トーア　ストリングス
TOA-STRINGS SSW

東亜ストリング株式会社

〒651　神戸市中央区八雲通３－１－24

☎078(232)1991(代)

WORLDWIDE TOPICS

海外トピックス
友枝康子

グランプリ・サーキット開催の動き

IBF主催のグランプリ・サーキットが一九八二年中に開催の運びとなりそうである。現在スポンサー候補との折衝が進行中である。

1月に始まり、12月に決勝が行われる初年度のトーナメントの詳細については、できるかぎり早急にIBFから発表される予定である。

グランプリ・サーキットとなると各国を転戦して、ポイント争いをつづけるもので、テニスやスキーなどではすでに定着している。

しかし、選手としては当然賞金獲得に全力を注ぐことになり、ライセンス・プレーヤー（認定選手）や国家がらみのステート・アマがその中心をなし、日本のような〝純アマチュア〟もしくは〝企業アマ〟レベルでは、経費の点で積極的に参加することは困難と思われる。

第12回トマス杯大会組み合わせ決まる

トマス杯大会インターゾーン決勝大会は、一九八二年にイギリスで開催されるが、期日は5月10日から21日までの予定。

各ゾーン予選の組合せは別表のとおり決定したが、日本はアメリカ・ゾーンから出場する。

WBFがIBFと統合されたことにより、中国がついにトマス杯に顔を出すわけであるが、日本としては、インターゾーン進出に最も可能性のある地区を選んだことになる。オーストラレイシア・ゾーンにはシデク兄弟を擁するマレーシア、ヨーロッパ・ゾーンにはデンマークとスウェーデン、アジア・ゾーンには中国、インドがひしめくというわけである。

また、前回チャンピオン国のインドネシア、開催国のイングランドを加えたインターゾーンの組合せも別表のとおり決定している。

★第12回トマス杯大会予選組合せ

⊙オーストラレイシア・ゾーン
- マレーシア
- オーストラリア
- ニュージーランド

⊙ヨーロッパ・ゾーン
- スコットランド
- オーストリア
- オランダ
- デンマーク
- 西ドイツ
- ソ連
- スウェーデン

⊙アジア・ゾーン（西地区）
- 中国
- パキスタン
- インド
- スリ・ランカ

（東地区）
- 韓国
- 中国台北
- タイ
- シンガポール

⊙パンアメリカン・ゾーン
- ナイジェリア
- アメリカ
- メキシコ
- 日本
- ペルー
- カナダ

★インターゾーン組合せ
- インドネシア
- イングランド
- オーストラレイシア
- ヨーロッパ
- パンアメリカン
- アジア

賞金ランキング またペリーがかせぎ頭

IBF理事会では、現在三年に一回実施され、次回は一九八三年の予定であるが、一九八四年、一九八六年……というように二年に一度の開催とする方針を採択している。

これに伴ない、理事会では一九八四年開催ということで現在参加申込みを受け付けている。

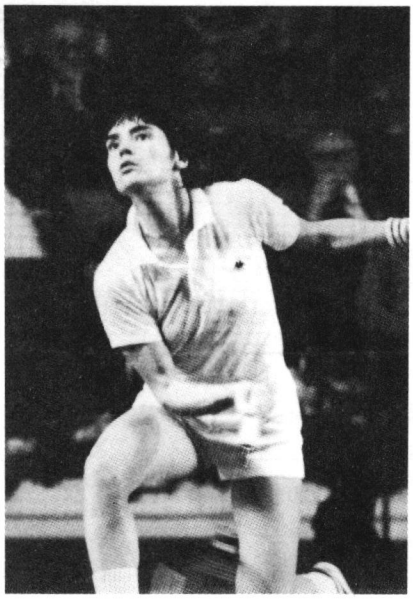
一九八〇年一〇月から一九八一年三月までの賞金獲得ランキングがIBFから発表になった。

それによると〝賞金かせぎ〟の異名をとるノラ・ペリー（イングヤンド）がトップ、つづいてリーン・コーペン（デンマーク）となっている。

ルディ・ハルトノ、リム・スイ・キンらインドネシア選手は認定選手ではないため、賞金は受け取ることができない。いったん所属国協会を経由し、〝強化費〟といった名目で還元されているが、インドネシアではバドミントンが国技のため、生活保障がなされているとみるのが妥当であろう。



ペリー（イングランド）



コーペン（デンマーク）

賞金獲得ランキング

★男子

①モンテン・フロスト・ハンセン（デンマーク）**190**万円
②マイク・トレジェット（イングランド）**172**万円
③レイ・スティブンス（イングランド）**149**万円
④トーマス・キールストローム（スウェーデン）**140**万円
⑤ステファン・カールソン（スウェーデン）**109**万円
⑥プラカシュ・パデュコーン（インド）**94**万円
⑦ビリー・ジリランド（スコットランド）**93**万円
⑧フレミング・デルフス（デンマーク）**61**万円
⑨ステーン・スコブガード（デンマーク）**32**万円
⑩ダン・トラバース（スコットランド）**29**万円

※カールソンは**59**万円、プラカシュは**41**万円を、それぞれ認定前に獲得している。

★女子

①ノラ・ペリー（イングランド）**280**万円
②リーン・コーペン（デンマーク）**275**万円
③ジェーン・ウェブスター（イングランド）**230**万円
④ギリアン・ギルクス（イングランド）**216**万円
⑤ポーラ・キルビントン（イングランド）**96**万円
⑥マーヤン・リダー（オランダ）**18**万円
⑦バーバラ・サットン（イングランド）**16**万円
⑧アン・スコブガード（デンマーク）**15**万円
⑨バーバラ・ベケット（イングランド）**7**万円
⑩ジョアンナ・フロックハート（スコットランド）**3**万円

※IBFからの発表は、ポン



ハンセン（デンマーク）

ド単位であるが、1ポンド＝550円で換算し、千円以下は切り捨てとした。

10月に「アルバ・クオーツ・ワールドカップ」が

日本では歌手の松田聖子をポスターに起用し、駅では貼るそばから盗まれるという人気をみせた〝アルバ・クオーツ〟(時計メーカー)が、バドミントンのワールドカップのスポンサーに決定した。

この大会は、「アルバ・クオーツ・ワールドカップ招待シングルス大会」で、きたる10月7日から11日まで、マレーシアのクアラルンプールで開かれることになった。

IBFとWBFが統合され、バドミントン界に対する社会的認識も高まり、またオープン化の波も押し寄せている。

こういった背景から、各企業からバドミントンに対する媒体価値の見通しが始まっている。

わが国では当面ライセンス・プレーヤー(賞金を手にすることのできる認定選手)が誕生する可能性はないが、ヨーロッパのライセンス・プレーヤー、アジア各国および共産圏のステート・アマチュア(国家丸がかえ選手)により、この種の大会はますます活気を呈してくることになろう。

アルバ・クオーツ・ワールドカップには、左記選手あてIBFから招待状が送られている。

★男子

ルディ・ハルトノ、リム・スイ・キン、ルイス・ポンゴ、ハディヤント(インドネシア)
欒勁、韓健、陳昌杰(中国)
ミズブン・シデク(マレーツア)
レイ・スティブンス、ケビン・ジョリー(イングランド)
プラカシュ・パデュコーン、シェド・モディ(インド)
フレミング・デルフス、モルテン・フロスト・ハンセン(デンマーク)
トーマス・キールストロム(スウェーデン)
土田証雄(日本)

▽候補選手

ニック・イエーツ(イングランド)ステーン・フラッドベリ(デンマーク)ステファン・カールソン(スウェーデン)クルニアウ、ダニー・サルティカ(インドネシア)銭谷鉄治(日本)

★女子

黄善愛(韓国)
米倉よし子、近藤小織(日本)
ギリアン・ギルクス、サリー・レッドビーター(イングランド)
陳瑞珍、張愛玲(中国)
ベラワティ・ウィハルジョ、イバナ・リ・イン・ホー(インドネシア)
キャサリーナ・テ(マレーシア)
リーン・コーペン(デンマーク)
ウェンディ・カーター(カナダ)

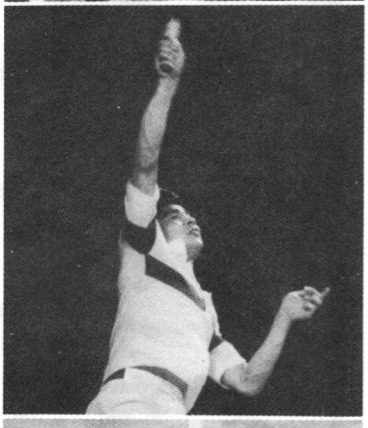
▽候補選手

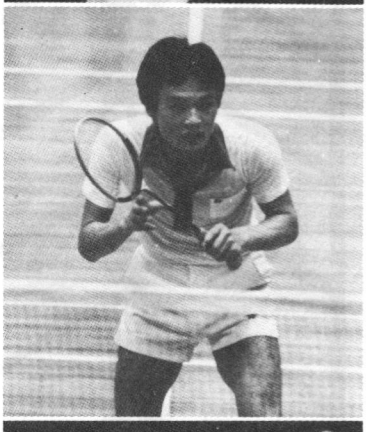
ジェーン・ウェブスター(イングランド)徳田敦子(日本)
金練子(韓国)

賞金額は未定、またメンバーにもまだ多少の変更の可能性がある。

さきのワールド・ゲームスでは中国がその恐るべき実力を見せつけたが、今度はインドネシア、ヨーロッパ勢の巻き返しなるか、大いに楽しみなところ。


ハルトノ(インドネシア)


韓健(中国)


土田(日本)


米倉(日本)

チャンピオンをめざせ！



銭谷欽治

筋力トレーニングを取り入れるべき

近代バドミントンは、今や筋力トレーニングなくしては、向上する余地がなくなってきた。

外国選手とわれわれ日本選手との間には、テクニック以前の体力において数段の開きがあるように思う。

外国選手とは、大会の折りに接する機会は多いのだが、ロッカーなどで裸になった彼らの体と比べると、日本人の体がいかに貧弱かがよく判る。

持って生まれたものもあるに違いないが、それは余りにもいかんともし難いものだ。

最近、日本では、速さテクニックを重視する傾向が強すぎて、筋力強化をおろそかにしているのではないだろうか。

一部に、スピードを優先するには、必要以上の筋肉はかえって邪魔になるという考え方もあるようだが、これは明らかに誤り。

走力、持久力などとの兼ね合いを考え、より多くの筋力をつけておくことが大切。

仮りに、百kgの物を持ち上げる能のある者と、五十kgの物を持ち上げる能力の者が、十kgの物を持ち運ぶ作業をした場合、どちらが正確により早く作業を完了できるかは火をみるよりも明らか。

スイングのスピードを生むのは、腰や腕のもっとも有効な使い方によるものだが、そのスイングを起こし、支え、受けとめるのは筋力なのだ。

速さだけを追求すれば、きっとスピードに堪え切れず、故障が後を断たないだろう。

現在、テニスで世界のランキング百位にも入れないのは、筋力の絶対値が百位に入れないことを意味している。

隆盛を誇るゴルフでも、外国選手が9番アイアンで打つところを、日本選手が7番アイアンでは、自ずと正確さに開きが出てくるのは当然だ。

パワーは、強さや速さを生むためのものだけではなく、同時に正確さを生む原動力なのだ。

では、どうすれば筋力をつけ、パワーアップすることができるのか。

現在の日本では、残念ながら筋力トレーニングを徹底的に行なえる器具も、場所も、豊富に用意されているとはいえない。

個人的な乏しい体験から割り出して、腕立て伏や鉄棒につかまる努力をするしかない。

またその方法にしても、私の聞きかじりの知識によれば、筋肉全能力の50パーセントから70パーセントの運動が最も効果が上がるというのだが、それではその基準になる〝全能力〟というのはどうやって計り出せばよいのかというと、ハタと困ってしまう。（全能力とは、火事場のバカ力であるから、単純には計り出すことが困難）

50回以上も難なくこなせる腕立て伏をしながら、果してこれで〝瞬発力〟がはつくのだろうかと半信半疑の状態になってしまうのだ。

筋肉の持久力はついても、瞬

発力に関しては無意味なのかも知れない。

ある意味では、耐久力、持久力を養うトレーニングはある程度経験によって割り出すことができる。

ゲーム中や、練習中の疲労感、ミスの変化などによって、その耐久力のなさを知ることができる。

われわれは、気がついた箇所の筋力運動を数多く繰り返し、持久力を鍛えていくことが可能である。

しかし、持久力をつけることも大事だが、瞬発力をつけることは選手にとってこの上ない魅力だ。

最近は、ラケットも百グラム前後のものが主流になってきた。

だからといって、パワーがなくていいということではない。

むしろ、軽くなった分だけスイングが速くなるのだから、フォロースルーを支える筋力を支えるべきなのだ。

ラケットが重ければ、自然と体全体を使ってスイングするが、ラケットが軽くなれば、腕だけの力で振ってしまったり、握力だけでスイングを止めてしまったりする。

これが結果的に肘や手首を、痛める原因になる。

軽くなればなるほど、バックスイングやフォロースルーが横着になってくるものだ。

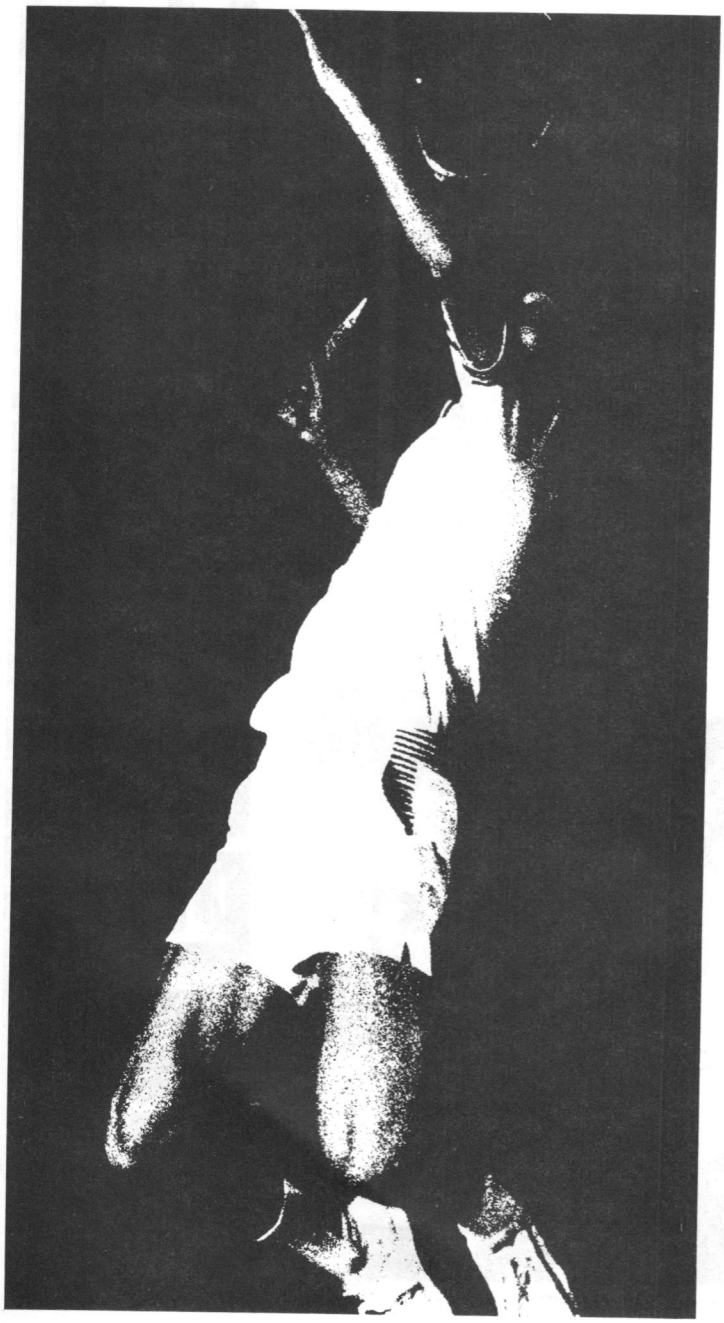
故障防止の意味でも、筋力強化は欠かせない。

しかし、残念ながらバドミントンの世界では、体力強化、筋力強化の分野で、大きく遅れをとっているといわざるを役ない。

これからは、これらの分野でもどんどん研究がなされていくだろうが、できることならバドミントン関係者、経験者によって研究が手がけられることを期待したい。

私の年齢になれば、もう瞬発力の養成は望めないかも知れない。

暇をみつけては、ただひたすら走り、脚力の低下だけは避けたいと心掛けているが。



私は、体力も技術の一つだと思っている。

テクニックと体力を切り離して考えないで、一体になったものとして考えるべきだと思う。

体力面で余裕を持つことができることによって、新しいテクニックが生まれてくることを私は体験したことがある。

余裕があることで、ラケットさばきを何時もより変化させてみたり、フェイントをかけてみたり、テクニックを生む頭の中に〝ゆとり〟を持つことができる。

「どんなに高性能なエンジンでも、切れてしまえば使いものにならない」とはよく使われる表現だが、テクニックを支えるのは体であるのだから、体力強化は技術強化以上に重要なことに違いない。

第11回全国中学校選抜

男子は桜山、女子は四条畷

第11回全国中学校選抜バドミントン競技大会は、8月24・25・26日の3日間、奈良県奈良市中央体育館において行なわれた。全国各地区の予選を勝ち抜いた精鋭、延べ約三百名のチビッ子たちによって、連日、激しい攻防が繰り広げられた。

▼男子団体1回戦

栄進中 3—0 金沢中
（埼玉） （秋田）
福田中 2—1 洛星中
（岡山） （京都）
桜山中 3—0 里中
（熊本） （埼玉）
光陽中 3—0 裏磐梯中
（福井） （福島）
常盤平中 2—1 南中
（千葉） （静岡）
江陵中 3—0 春日中
（北海道） （奈良）
大鰐中 2—1 住吉中
（青森） （兵庫）
戸塚中 3—0 勝賀中
（神奈川） （香川）

▼同準々決勝

栄進中 2—0 福田中
桜山中 2—1 光陽中
江陵中 2—1 常盤平中
戸塚中 2—0 大鰐中

▼同準決勝

桜山中 2—0 栄進中
江陵中 2—0 戸塚中

▼同決勝

桜山中 2—0 江陵中

▼女子団体1回戦

出水中 3—0 浪岡中
（熊本） （青森）
白石中 2—1 梅津中
（岡山） （京都）
上砂川中 2—1 真岡東中
（北海道） （栃木）
香川一中 2—1 里中
（香川） （埼玉）
栄進中 3—0 小俣中
（埼玉） （三重）
雫石中 2—1 三笠中
（岩手） （奈良）
光陽中 3—0 日新中
（福井） （山形）
四条畷中 2—1 中野七中
（大阪） （東京）

▼同準々決勝

出水中 2—1 白石中
香川一中 2—1 上砂川中
栄進中 2—0 雫石中
四条畷中 2—0 光陽中

▼同準決勝

出水中 2—1 香川一中
四条畷中 2—0 栄進中

▼同決勝

四条畷中 2—0 出水中

▼男子シングルス1回戦

江藤（四条畷・大阪） 2—0 岸（大鰐・青森）
角谷（北都・北海道） 2—0 越後（今市・栃木）
宮脇（勝賀・香川） 2—1 太田（中田・宮城）



男子ダブルス優勝、鶴田・山下組（桜山中）



女子ダブルス優勝、佐々木・今野組（里中）

黒沢（神谷・東京）2—1平井（上市・富山）
中川（塚口・兵庫）2—0小松崎（石岡・茨城）
一戸（大鰐・青森）2—0今東（西大寺・岡山）
大矢（栄進・埼玉）2—1梅原（郡山・奈良）
林（桜山・熊本）2—0小野木（鵜沼・岐阜）

▼同準々決勝

江藤 2	15—15 15—12 13	0	角谷
黒沢 2	15—15 9—10	0	宮脇
一戸 2	15—12 12—15 15—6	1	中川
林 2	18—16 15—9	0	大矢

▼同準決勝

黒沢 2	15—15 9—11	0	江藤
林 2	15—15 5—10	0	一戸

▼同決勝

林 2	15—15 5—9	0	黒沢

▼女子シングルス1回戦

平井（信愛・熊本）2—0谷地（雫石・岩手）
飯塚（真岡東・栃木）2—0水川（京西・奈良）
徳光（上砂川・北海道）2—0佐藤（小山第二・栃木）
池田（啓明・兵庫）2—0油川（大鰐・青森）
新木（四条畷・大阪）2—0東出（小俣・三重）
須藤（明野・茨城）2—0日下（上南・岡山）
今井（栄進・埼玉）2—0元木（日新・山形）
藤井（真野・新潟）2—1阿部（香川第一・香川）

▼同準々決勝

平井 2	11—11 4—2	0	飯塚
徳光 2	11—12 8—10	0	池田
須藤 2	11—4 9—12 9—11	1	新木
今井 2	12—11 10—8	0	藤井

▼同準決勝

今井 2	12—11 9—8	0	今井
平井 2	11—11 7—5	0	須藤
今井 2	11—11 6—3	0	徳光

▼同決勝

平井 2	12—11 9—8	0	今井

▼男子ダブルス1回戦

鶴田・山下（桜山・熊木）2—0菊地・黒沢（裏磐梯・福島）
井上・渡辺（戸塚・神奈川）2—0若生・片岡（三笠・奈良）
江連・山中（小山二・茨城）2—0山口・石塚（大鰐・青森）
坂田・芦井（成和・福井）2—0福島・北畠（郡山・奈良）
柴田・石川（今市・栃木）2—1梶尾・梶尾（福田・岡山）
福士・佐山（浪岡・青森）2—0田村・谷口（南・静岡）
松元・福田（里・埼玉）2—0田村・松浦（勝賀・香川）
清野・乾（春日・奈良）キケン 佐藤・中居（江陵・北海道）

▼同準々決勝

鶴田 山下 2	15—15 7—6	0	井上 渡辺
坂井 芦田 2	15—15 10—4	0	江連 山中
柴田 石川 2	15—15 11—3 10—15	1	福士 佐山
松元 福田 2	17—15 15—10	0	清野 乾

▼同準決勝

鶴田 山下 2	15—13 15—9	1	坂田 芦井
松元 福田 2	15—3 15—4	0	柴田 石川

▼同決勝

鶴田 山下 2	15—10 18—14	0	松元 福田

▼女子ダブルス1回戦
米津・林（出水・熊本）2—0 川端・岡田（高松・石川）
佐藤・石井（栄進・埼玉）2—0 今田・海藤（日新・山形）
鬼沢・羽成（石岡・茨城）2—0 沖潮・伊藤（啓明・兵庫）
高橋・藤原（上砂川・北海道）2—0 天野・天野（白石・岡山）
大根・金田（郡山・奈良）2—0 後藤・三田（笠松・岐阜）
親川・永田（大泉西・東京）2—0 伊藤・永野（聖ウルスラ・宮城）
和泉・今村（四条畷・大阪）2—0 佐々木・桑田（勝賀・香川）

▼同準々決勝

米津 林	2	15—11	15—4	17—18	1	佐藤 石井
高橋 藤原	2	15—11	15—12	15—5	0	鬼沢 羽成
佐々木 今野	2	15—8	15—5	15—5	0	大根 金田
和泉 今村	2	15—5	15—5	15—4	0	親川 永田

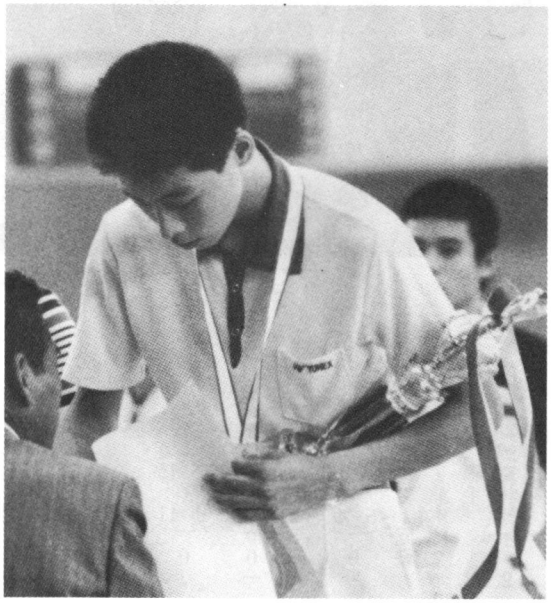
▼同準決勝

米津 林	2	15—6	15—6	15—7	0	高橋 藤原
佐々木 今野	2	15—8	15—6		0	和泉 今村

▼同決勝

佐々木 今野	2	15—12	15—11		0	米津 林

技術よりマナーの低下が心配



男子シングルス優勝、林（桜山中）



女子シングルス優勝、平井（信愛学院中）

バドミントンが、早くも全国的レベルで中学生に根を降ろしたというのが、偽らざる実感。

上位に進出した学校、選手に止まらず、1回戦から緊迫したゲームが展開されたことが、それを物語っている。

つい2～3年前と比べても、地域的な格差がなくなってきたことは明らかだ。

今までやや手薄だった北陸、東北、四国勢が台頭して少しも劣勢を感じさせなかった。

バックハンドもソツなくこなし、スピンサービスまで披露してくれるに至っては驚くばかり。

これまでは、1回戦を見れば優勝の行方はある程度占えたものだが、とくに今年はその予想が困難だった。

つまり、優勝候補〝不在〟の大会でもあった。

良くいえば、レベルアップしたため、粒揃いであったといえるが、逆にいえば〝ドングリの背比べ〟であったともいえる。

レベルアップを喜ぶべきか、魅力ある荒削りな選手の不在を



悲しむべきか、確かに底辺は広がり層は厚くなってはきているが、頂点が伸び悩みというのもまた現状である。

そして、今大会において最も印象に残ったのは、嘆かわしくもそのコートマナーの悪さであった。

これは、残念としかいいようがない。

先日のインターハイも悪かったが、この中学生大会と比べればまだましではなかったか。

社会人より大学生、大学生より高校生、高校生より中学生と、年齢が低くなるにつれコートマナーが悪くなるのは、いったいどこに原因があるのだろう。

あるときは、主審を無視して平気で汗をふきにいったり、ネットの下からシャトルを返したり、ましてや自分のミスに腹を立ててネットを叩くなどは論外である。

あまりにも「勝ちたい、勝ちたい」という意識が強く、相手プレーヤー、審判の存在を忘れてしまっている。

相手プレーヤーだって勝ちたいのだ。

審判員だって、自分でプレーした方がいいに決まっている。

社会人になったからといって「勝ちたい」ことに変わりはない。

何も、バドミントンはイギリス育ちの紳士のスポーツなどというつもりは毛頭ない。

応援は、思う存分やってもよいと思うし、コートで飛びはねることも結構。

しかし、バドミントンは相手があってこそできるスポーツであることを認識して欲しい。

相手を威嚇したり、不愉快な思いをさせて勝っても何が面白いものか、相手の力を十分に発揮させた上で勝つことに意義があり〝競技〟といえるのだ。

まして、コートサイドの監督が勝手にタイムをとったり、チェンジエンドの際に選手を呼び寄せているのだからお話にならない。

それを、あまりにさりげなく大胆に傍若無人に行なうので、この大会の特別ルールでもあるのかと錯覚を起こすくらいであった。

先生が〝勝つ〟ことを強いれば、生徒は必死になる。

しかし、ルールを無視してよいという道理はない。

試合が始まったら、主審の許可なくしてコートを離れることはできない。

ルール無視の上に、ネットへ八ツ当たりするとは言語道断である。

あの中学時代、高校時代には人一倍大声を張り上げ、コート上を駆け回った「バドミントンは喧嘩」といってはばからない権藤選手（現日体大）でさえ、試合が終わればなんともいえない清涼感を残してコートを去ったものだ。

行動そのものにたいした差があるわけではないのに、受ける印象は雲泥の開き。

もちろん、全部が全部ではない。

ごく一部の監督、プレーヤーのために、大会すべてが後味の悪いものになってしまうことに堪えられないのだ。

この際だから、ひとつ提案をしてみたい。

個人戦における、コートサイドへの付き添いというか、監督の入場は、この大会に限らず全廃にしたらどうだろうか。

本来ならば、プレーヤーへのアドバイスは禁止されているはず、だとしたらなんの意味もなさないのではないか。

ラケット、タオルは自分が持っておけばよいし、肩ならしは相手選手と行なえばよい。

選手に自立心が芽生えるし、相手選手との交流も生まれる。

一挙両得ではないか。

外国では例外なく、これが常識であるはず。

まして、日本人同士の試合で不自由は絶対ないはず。

作戦は自分で練り、相手の弱点は自分で見抜こうと努力し、クレームがあったら自分の口でいう。

バドミントンは、粉れもない〝個人戦〟なのだから。

バドミントンを楽しく

四谷健二郎
メディカルアドバイス

ケガと手当て

グラウンドを走る。つまずく。足がもつれる。血が出る。砂や小石がキズにめりこむ。ヒリヒリ痛む。

レシーブしようとして足がもつれる。いきおいあまってころぶ。手をつく。手をすりむく。血がとぶ。

⊙スポー中のケガ

スポーツにケガはつきものだ。ひと口にケガといっても、ちょっと皮をすりむくというケガもあれば、死にいたる大ケガもある。キズにもいろいろあろう。

▼すりキズ

皮膚の表面をすりむいたもので、とくに気をつけるのは、キズ口に砂や石が入っているかどうかをたしかめることである。

▼切りキズ・刺しキズ

ガラス・針・クギ・刃物・そのほかいろいろあろうが、刺しキズで深いものは、しろうと療法は禁物。

▼裂けたキズ

骨が皮膚の表面から浅い所にある部分を強し打ったりすると、表面にある皮膚が裂ける。

あご・ひたい・頭・おしりなどに多い。

▼射創

ピストルや空気銃などで撃たれたときのキズで、弾丸が体内に残る場合もある。

▼ねんざ

骨折がないかをたしかめ、水につけるか、氷のうを当てて冷やす。冷やす時間は30分～40分。

▼骨折

痛みをやわらげるために、骨折の部分をまず固定する。

▼ショックの手当

頭を低くし、足を高くしてねかせ、毛布やふとんをかける。

ケガの種類は多いが、とりあえず身近なものは以上のとおりであろう。

⊙消毒薬の歴史

消毒薬について語るときわすれてならない人がいる。イギリスの外科医リスター（Joseph Lister）だ。

一八二七年四月五日、英国はエセックス州のアプトンに生まれ一九一二年二月一〇日にケント州のウォハマーで亡くなった。

彼は、色消し顕微鏡の発明者を父にもっが、自分は医学をめざし、一八五二年学位をとって外科医になった。

リスターは、その当時流行した切断術（たとえば足を切る術）や、アメリカの歯科医のモードン（William Thomas Morton）が開発した麻酔法に興味をもっ。

モートンは、アメリカ最初の歯科大学であるボルチモア歯科大学を卒業した人だが、一八四六年に患者の歯をエーテルを使って最初に抜き取ることに成功した人と知られる。

リスターは、麻酔の方法が開発され、手術のとき患者が痛みを感じなくなったことはよいが、

手術のあとおこる伝染病のために患者が死亡するのをみて心をいためた。

彼は、あれこれ考えるが、結局のところ石炭酸（フェノールともいう）を使ってみることにした。するとどうであろう、思ったとおり伝染病はなくなり、それによる死亡率も激減した。

このことは、当時それほどではなかったが、消毒技術の基礎をつくり、いままで病院というところは、死ぬ前に気休めに入院して、ひとやすみする停留所のようなものだという考え方をみごとにかえてしまったのである。

石炭酸という、この特有な臭気のある物質は、フェノールそれ自体と、液状フェノール、消毒用フェノールなどがあるが、このくすりの応用は医学にとって画期的なことであった。

それにしても、今から一〇〇年前までは、化膿するということは、そのまま死を意味した。ケガをすれば必ず化膿し、手術すればウミをもち、またお産すれば産褥熱で死亡した。

思えば当然であった。なぜなら、化膿の原因は細菌であるという、いまでいえばあたりまえの常識が当時ではわかっていなかったのである。

ところで、手術の際、フェノールを使うというこの簡単なことが、すぐにうけ入れられたわけではない。



彼がすすめた石炭酸で傷口や包帯を消毒するという論文は、一八六七年「ランセット」という一流の医学雑誌に提載されたにもかかわらず、反響はないばかりか、全く無視されたままであった。

ところが幸か不幸か、普仏戦争がはじまり、多数の負傷者が続出し、イギリスの敵国であるはずのプロシャ軍が、フェノールを使用しその効果を結果的に実証することになったのである。

このことがあって、イギリス人も、しぶしぶ腰をあげ、リスターのフェノールを使うこととなった。

⊙身近な消毒薬

▼液状フェノール

フェノール（石炭酸）に10%の水を加えると液状フェノールになる。3～4%液を器具に使う。

▼クレゾール

フェノールより毒性は少なく、殺菌力は強い。手の消毒には0・1～1%がよい。

▼ヘキサクロロフェン

G11ともいう。薬用石鹸に入っている。1%溶液がキズ口によい。

▼アルコール

エタノールともいう。70%がよく、これ以上の濃度にしても意味がない。皮膚の消毒によい。

▼逆性石けん

陽イオン界面活性剤という。応用は広い。洗浄力は弱いが殺菌力は強い。無色・無味・無刺激で傷を洗い消毒するのによい。ハイアミン・オスボンなどの名がある。

▼ヨードチンキ

ヨーチンともいうが刺激性がある。

▼マーキュロクロム

赤チンともいうが水銀剤のため使われなくなった。

▼ヒビテン・イリジン

殺菌力は強く、無臭・毒性も少ない。

▼過酸化水素

オキシドールという。また三共という会社の商品名は「オキシフル」この名前の方が有名である。

3%過酸化水素水液のことで、創面の血液やウミの中にあるカタラーゼで分解され、酸素を発生して消毒する。

傷口につけるとブクブクと白いアワがでる。

過酸化水素をH_2O_2とかく。水の分子より酸素Oが一個多い物質。

キズ口にふりかけると、アワがでるが、このアワがキズ口の中に入った小石や、砂利を流し出してくれる。これほど便利な消毒液はない。だから、人呼んで「わんぱく坊やの消毒薬」といわれる。筆者は、スポーツ時の消毒殺菌薬はこれに限ると思う。常備してほしいものだ。

どんな運動にも、ケガはつきものである。ケガをしたら、傷の大小によるが、小さいときはオキシドールでキズ口をまず消毒する。そのあとマーキュロ、ヨードチンキなどを塗って消毒ガーゼをあて、絆創膏、包帯などでとめておこう。これでOK。ただ出血が多いときには、まず血をとめ、そして早目に医者に診てもらおう。

'81オリジナルTシャツ 好評発売中!!

★特価　１５００円

サイズ(S・M・L)

〈送　料〉
1枚＝240円
3枚まで350円
4枚以上7枚まで（小包料金）＝第1地帯・(市内)400円、(その他)500円、第2地帯・650円、第3地帯・800円
7枚以上14枚まで＝第1地帯・(市内)460円、(その他)580円、第2地帯・730円、第3地帯・880円

「バドミントン界」のオリジナルTシャツができました。
白地に赤一色で、「バドミントン界」のマークと、Guts & Fair Play の文字をミックスしたものです。
定価は1500円ですが、上記の送料をプラスして、巻末とじ込みの振替用紙に枚数とサイズを明記のうえ、お近くの郵便局からお申し込みください。　バドミントン界編集部



バドミントン界　The Badminton World

1981年9月号　©1981　通巻第143号

写真植字／サカキバラ写植，創研
印刷・製本／根岸印刷

◇本誌の記事・写真等を許可なく転載・複写することを禁じます

定価＝300円　1年間予約購読料＝3000円(送料共)
振替＝東京8－10737

昭和56年9月15日発行
編集兼発行人／赤星三樹
発行所／赤星出版株式会社
東京都目黒区鷹番2－8－22－205　〒152
☎03－712－6952

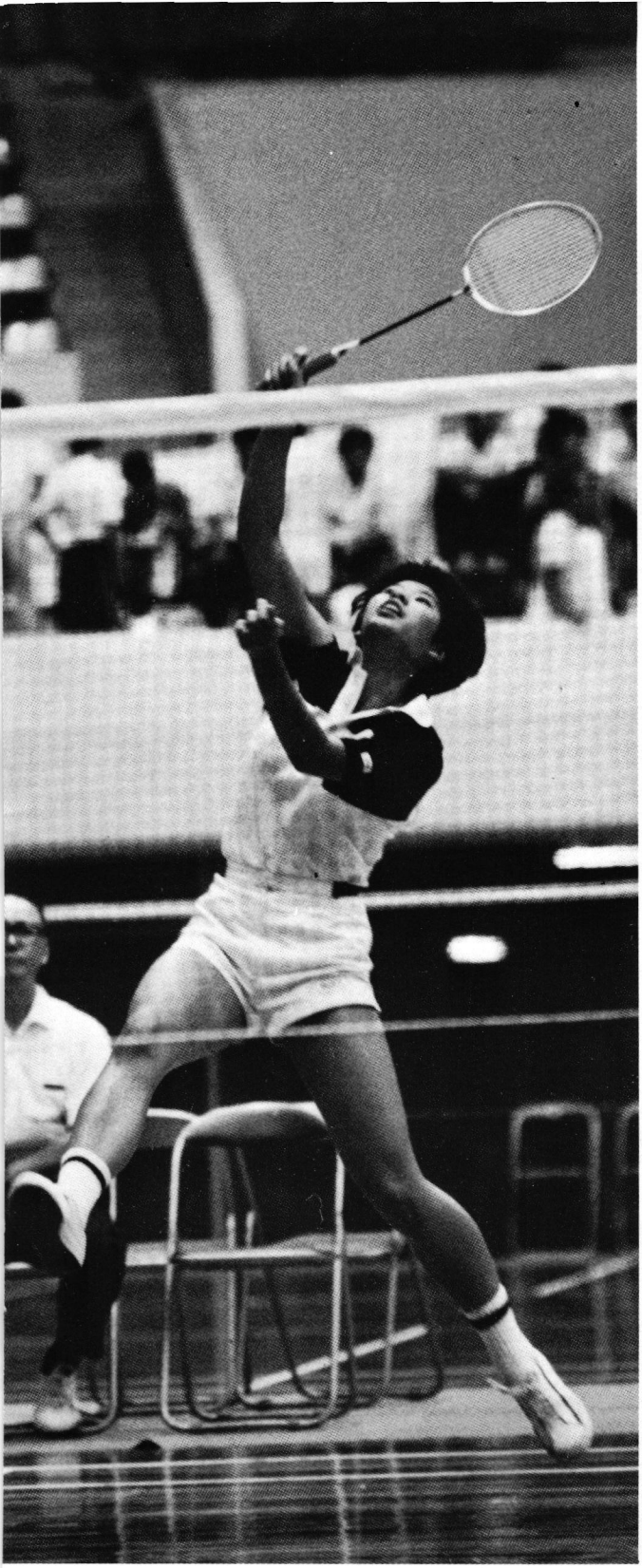
第11回全国中学校選抜



試合運びも鮮やかに男子ダブルスを制した鶴田・山下組（桜山中）

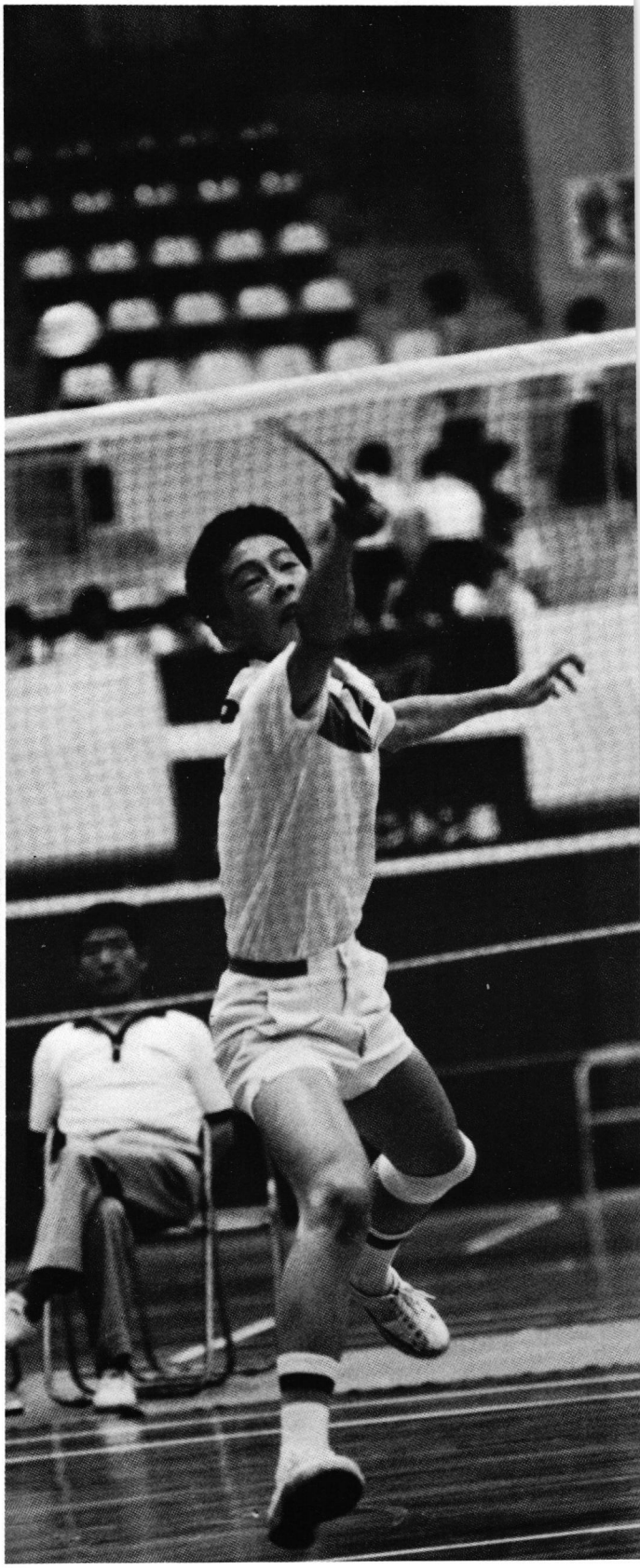
危なげなく女子ダブルスを制覇した佐々木・今野組（里中）





ダイナミックな攻撃で女子シングルスを制した平井（信愛学院中）

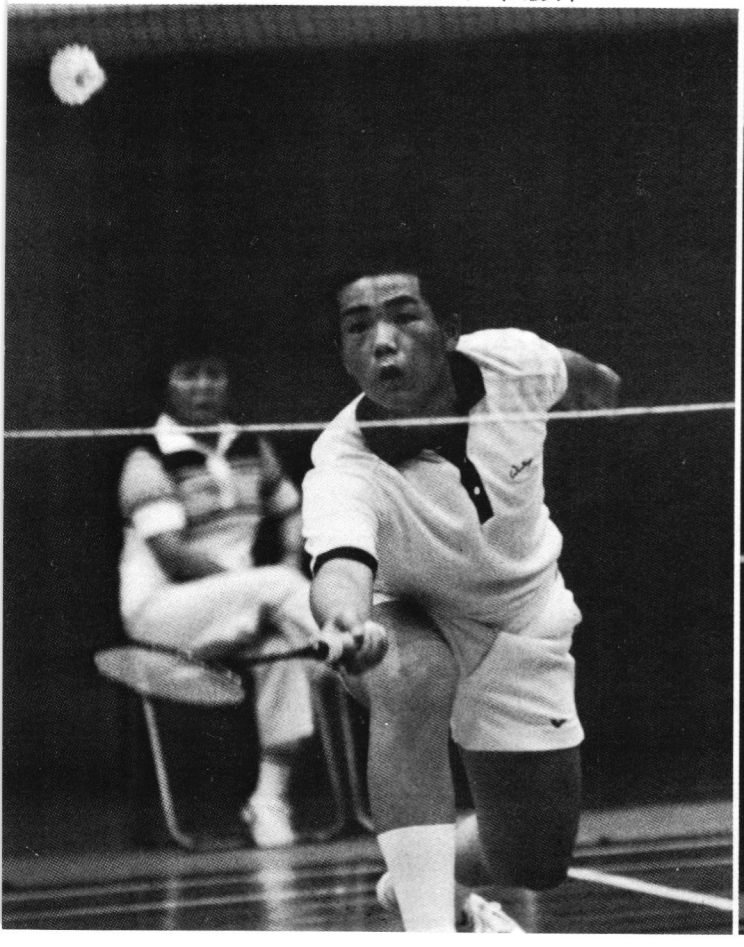
攻守そろって男子シングルスに優勝した林（桜山中）



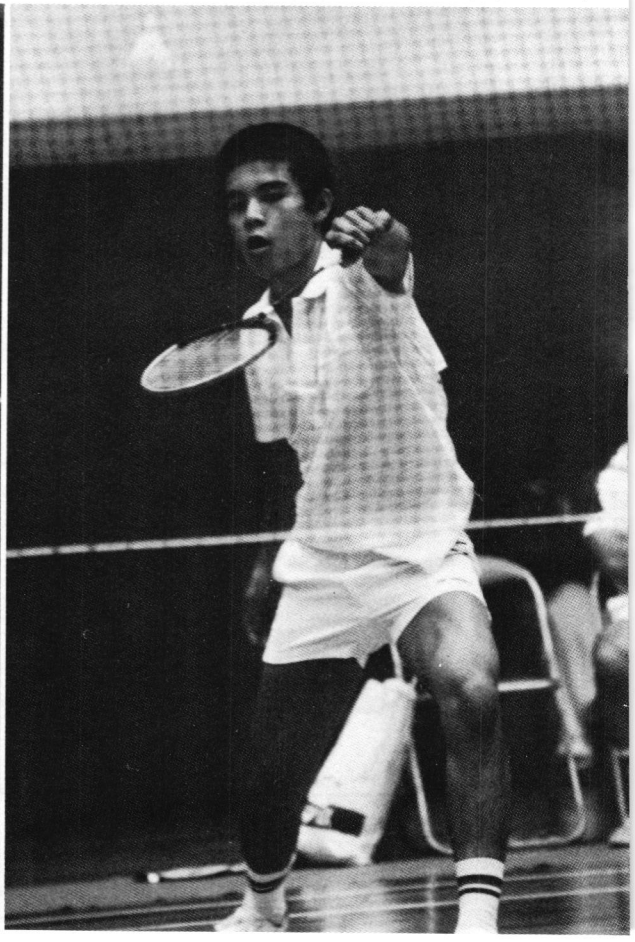


もう少し粘りをみせて欲しかった黒沢（神谷中）

なかなかのテクニシャンだった一戸（大鰐中）

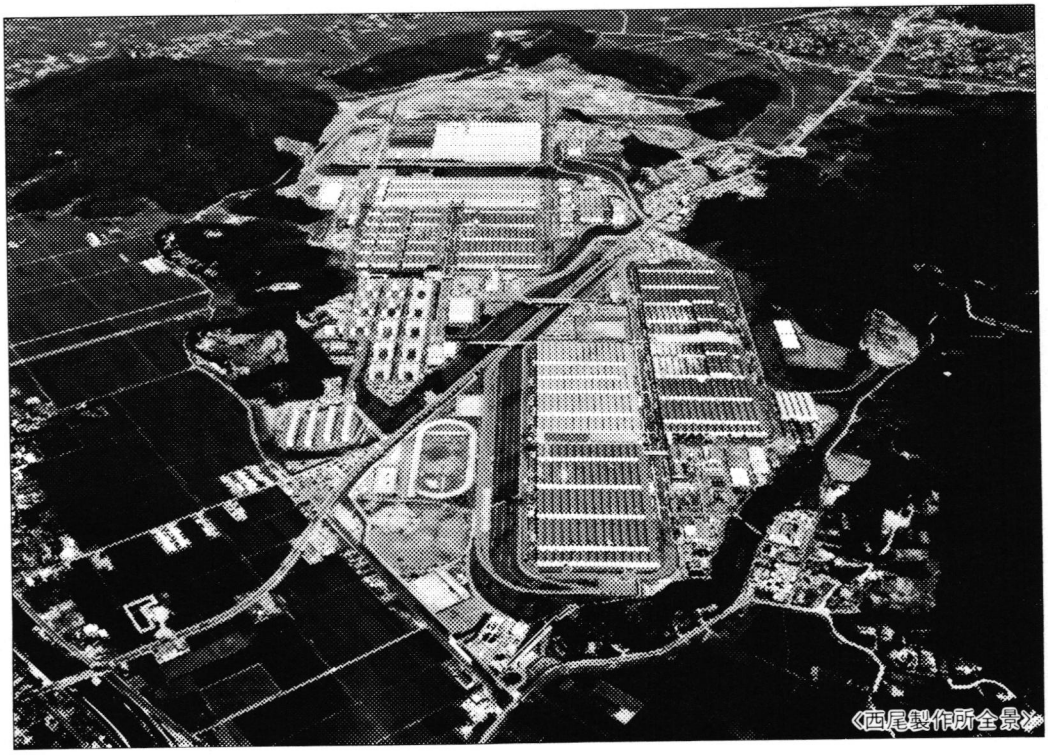


サウスポーとしての素質の良さをみせた江藤（四条畷中）



自動車部品の総合メーカー

長年つみ重ねてきた、エレクトロニクスの技術を駆使して
自動車のエレクトロニクス化――――――
モートロニクスを進めるデンソー!!


〈西尾製作所全景〉

《営業品目》

- ●スターター
- ●オルタネーター
- ●ダイナモ
- ●レギュレーター
- ●イグニッションコイル
- ●ディストリビューター
- ●マグネトー
- ●ホーン
- ●ワイパー
- ●ウインドウォッシャー
- ●各種電子制御装置
- ●排気ガス浄化装置
- ●カーエアコン
- ●カークーラー
- ●カーヒーター
- ●燃料噴射ポンプ
- ●各種メーター
- ●ラジエーター
- ●スパークプラグ
- ●フィルター

日本電装株式会社

本社／愛知県刈谷市昭和町1－1　（〒448）　TEL 刈谷(0566)22－3311

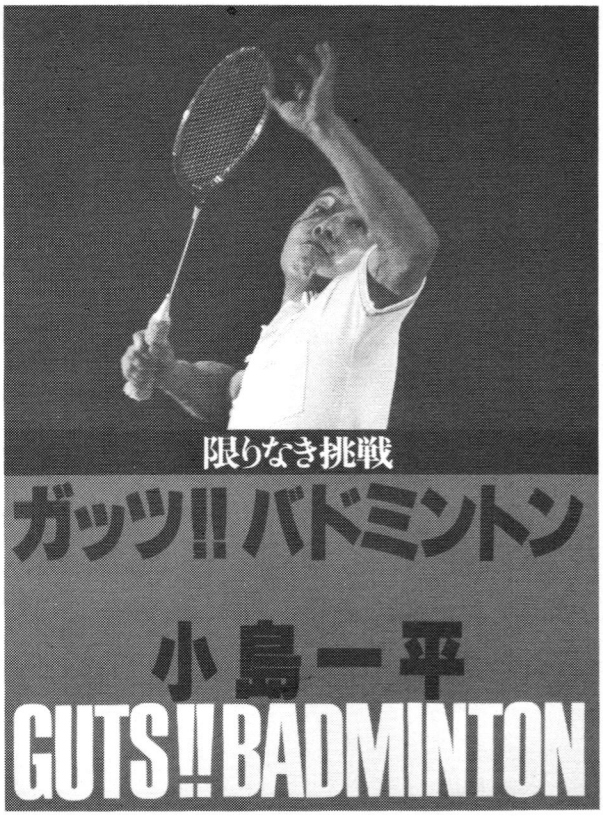
出版案内

バドミントン界編集部

お申込みは巻末とじ込みの振替用紙で、お近くの郵便局からどうぞ

ガッツ・バドミントン

オールジャパン男子シングルスでＶ８をなしとげた日本最強の〝ガッツ〟小島が、そのすべてをさらけ出した書。日本図書館協会選定図書――!!



限りなき挑戦

小島一平著

勝利へのガイドブック!!

好評発売中!!

菊倍判（225ミリ×295ミリ）

定価2000円（送料350円）

〈本書の内容〉

第Ⅰ部　体当たり半生記

１バドミントンとの出会い／２トップ・プレーヤーと接する／３オールジャパンを制す／４限りなき挑戦

第Ⅱ部　実戦アドバイス

１方法よりも意欲だ／２体力づくりに近道はない／３より速く、より高く、より前で

第Ⅲ部　わがライバルたち

１日本最高のシングルス・プレーヤー（秋山真男）／２団体戦に燃えた男（本間順次）／３夢ではない〝世界一〟（銭谷欽治）／４もの静かな全英チャンピオン（タン・アイク・ハン）／５デンマークの暴れん坊（スヴェン・プリ）／６史上最強の天才プレーヤー（ルディ・ハルトノ）

第Ⅳ部　主要大会記録・ルール

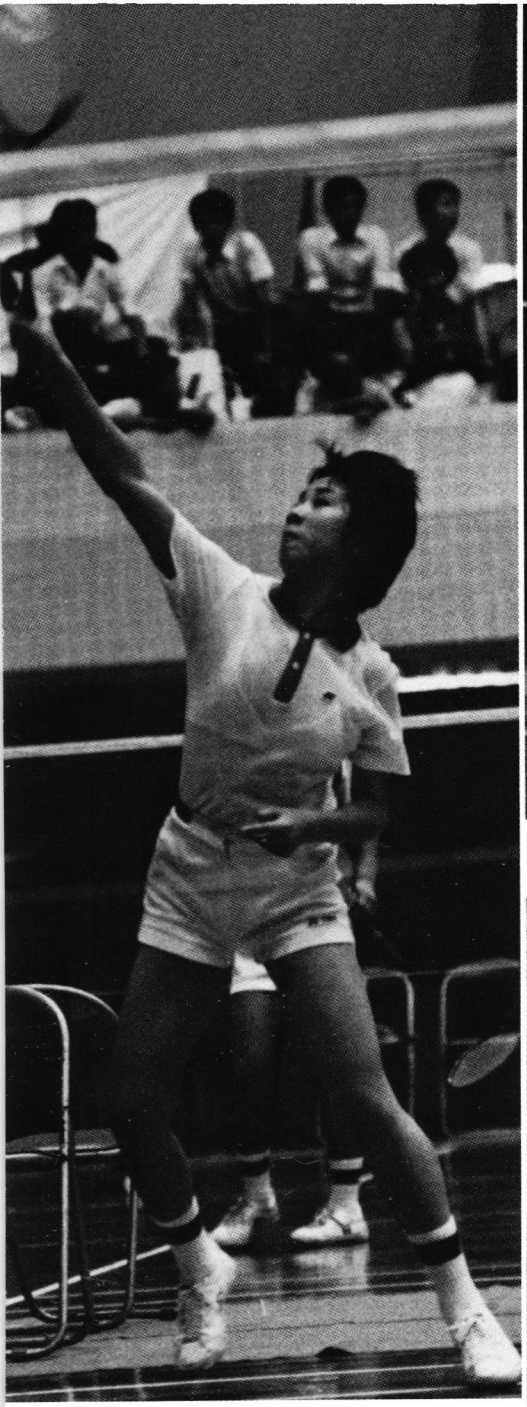
トマス杯大会／ユーバー杯大会／全英選手権大会／デンマーク・オープン大会／世界選手権大会／全日本総合選手権大会／競技規則／審判用語

★連続写真：小島一平、銭谷欽治、中井基夫、長谷川博幸、西山博司による11フォームを収録!!

★著者紹介★

小島一平（コジマ　イッペイ）は、神奈川県立緑ケ丘高校、中央大学卒。高校時代はインターハイ・シングルス2位だったが、大学に入ってからメキメキ実力をつけ、昭和41年から昭和50年の間に、オールジャパン・シングルス優勝８回、同ダブルス優勝４回という、わが国最高の記録を残している。全英選手権でも単複３位のほか、デンマーク・オープンでは単複に優勝している。

ヨネックススポーツを経て、現在はラケットショップ元町常務取締役。

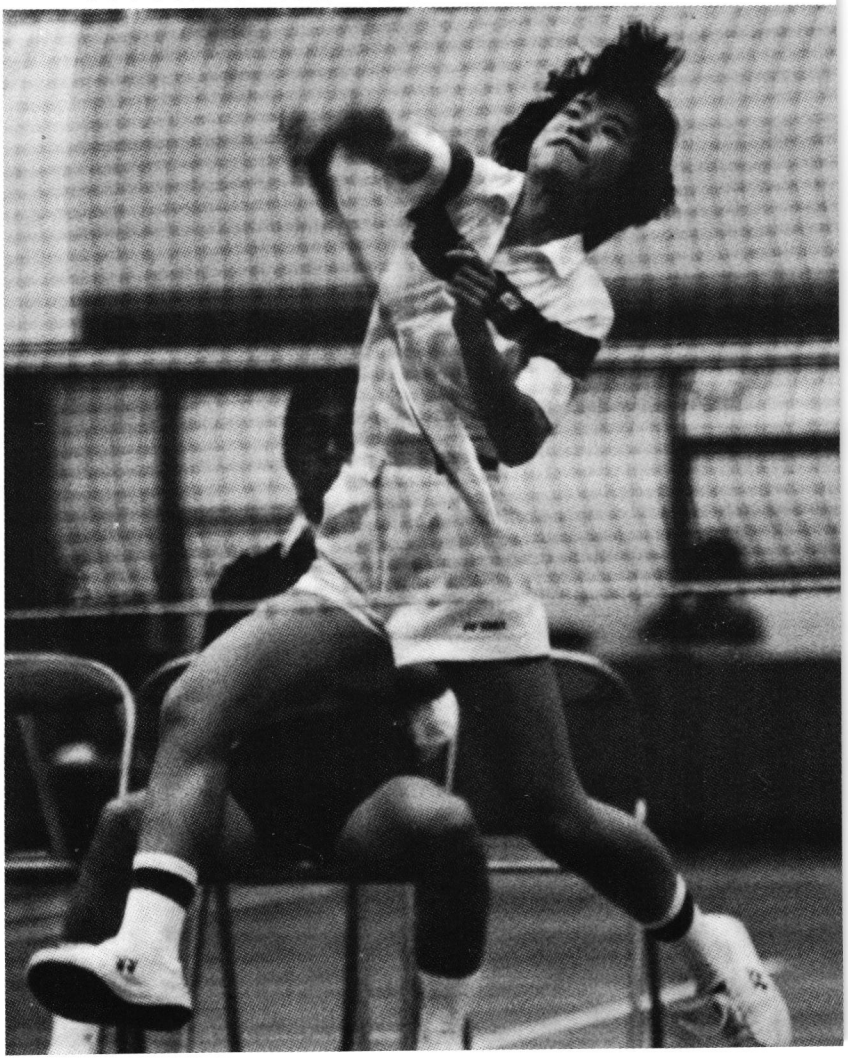


伸び伸びとしたフォームの徳光（上砂川中）



小柄ながら粘りのあった須藤（明野中）

ハツラツとした動きで準優勝の今井（栄進中）





ファイナルの連続を克服してベスト４入りを果たした柴田・石川組（今市中）



優勝ペアと互角に戦った坂田・芦井組（成和中）



激戦を勝ち抜いて決勝進出を果たした松元・福田組（里中）



今一歩、力強さが欲しかった和泉・北村組（四条畷中）

試合巧者ぶりが目立った米津・林組（桜山中）



ベスト４入りは本当に立派、高橋・藤原組（上砂川中）





DÉFI

イタリアからColor Liberation最新版の到着。

新鮮デフィ、新発売。

正統コットンホワイトのぼく。ところが、きょうのパートナーは、イタリアから新着のデフィのポロ。伝統の優れた機能性に、ファッショナブルなイタリアンフィーリングをコーディネイトしたNewデフィとは！ 鮮やかなイタリアンカラーが、ときにローマの華麗となって、ときにフィレンツェの繊細となって、コートを舞った。きみは、コートのウィナーになる前に、恋のウィナーになってしまうぞ。

kawasaki
カワサキラケット株式会社

月刊「バドミントン界」9月号昭和56年9月15日発行（昭和55年10月9日第三種郵便物認可）編集兼発行人／赤星三樹・発行所／東京都目黒区鷹番2―8―22―205・赤星出版株式会社 電話03―712―6952 〒152 定価／300円

カワサキラケット株式会社

しなやかなパワーが世界をうならせる。



バドミントンの女王
VERAWATI WIHARYO
ベラワティ・ウィハルジョ
1980年第2回世界選手権
女子シングルス優勝

独得のグラファイトシャフトは、復元力を限りなく高め、スピードの限界に挑むプレーに適確に応えます。シャフトが強化されて、しかも軽さを徹底的に追求。カラーも鮮やかなRed, Green, Yellowの3色。今、エイトファイブは日本を越えて世界のトッププレーヤーの期待に応えます。

素材：グラファイトシャフト/高力アルミ合金フレーム　カラー：レッド/グリーン/イエロー（ケース付）　フレーム価格：9,500円

B-85
エイトファイブ



Nice Day with Racket
kawasaki

本　　社：〒130東京都墨田区両国1-10-6 TEL（03）633-7211（大代）
大阪支店：〒550大阪市西区阿波座1-10-6 TEL（06）533-0521（代表）